
第2回 日野町議会定例会会議録（第3日）

令和8年3月18日（水曜日）

議事日程

令和8年3月18日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番1	7番	松本	利秋	議員
通告順番2	2番	小河	久人	議員
通告順番3	3番	坪倉	敏	議員
通告順番4	5番	梅林	智子	議員
通告順番5	8番	安達	幸博	議員
通告順番6	1番	小林	良泰	議員

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番1	7番	松本	利秋	議員
通告順番2	2番	小河	久人	議員
通告順番3	3番	坪倉	敏	議員
通告順番4	5番	梅林	智子	議員
通告順番5	8番	安達	幸博	議員
通告順番6	1番	小林	良泰	議員

出席議員（10名）

1番	小林	良泰	2番	小河	久人
3番	坪倉	敏	4番	中山	法貴
5番	梅林	智子	6番	金川	守仁
7番	松本	利秋	8番	安達	幸博
9番	竹永	明文	10番	中原	信男

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 中 田 早 文 書記 ————— 伊 田 達 彦
書記 ————— 山 縣 実

説明のため出席した者の職氏名

町長 ————— 近 藤 宏 副町長 ————— 音 田 守
教育長 ————— 安 達 才 智 総務課長 ————— 景 山 政 之
住民課長兼会計管理者 ——— 荒 木 憲 男 企画政策課長 ————— 神 崎 猛
健康福祉課長 ————— 住 田 秀 樹 産業振興課長 ————— 杉 原 昭 二
建設水道課長 ————— 音 田 雄 一 郎 教育課長 ————— 三 好 達 也

午前10時00分開議

○議長（中原 信男君） おはようございます。ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和8年第2回日野町議会定例会3日目を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（中原 信男君） 日程第1、一般質問を行います。

本定例会におきましては、6名の議員から一般質問の通告を受けております。

通告順に発言を許します。

最初に、7番、松本利秋議員の一般質問を許します。

7番、松本利秋議員。

○議員（7番 松本 利秋君） そうしますと、一般質問をさせていただきます。

私は2点でございますけれども、まず1点目、行政の推進についてでございます。

町長は、立候補に当たって、人が集い、挑戦し、元気になる「明日が楽しみな町、日野町」を

掲げられ、無投票で当選され、誠におめでとうございます。

私は、町長の現場、現物、現実を重んずる三現主義を基本として行政を推進しようとされていることに共感し、頼もしく、前を向いて頑張らなければならないと私も元気が出ました。

行政、まちづくりは、町民の声を聞くことがスタートではないかと考えます。

そこで質問をいたします。まず1点目、町民の意見を直接行政に反映させる出かける行政、広聴活動でございますが、そして全町民を対象にした行政意識調査も必要と思いますが、どのように取り組まれますでしょうか。

2つ目、町の情報発信が重要と考えますが、どのように取り組んでいかれますでしょうか。

次に、風力発電事業についてでございます。

風力発電事業については、多くの懸念があり、町民からも反対の陳情が出され、議会も反対で採択しております。事業が計画されている3町、日野町、江府町、伯耆町が一丸となり反対し、中止を求めて取り組まれているところでございます。

近藤町長は、エビデンス、ファクト、科学的根拠で反対したいと申され、住民が反対すれば反対であるとも申されました。これは当選祝いの際の記者の質問に答えられたものでございますが、そういうことで、1、風力発電事業について、改めて町長の考え方についてお聞きしたいと思います。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） おはようございます。初めての一般質問の対応なので少々緊張していますが、よろしく願いいたします。

初めに、町民の意見を直接行政に反映させる出かける行政、広聴活動及び町民を対象にした意識調査についての御質問にお答えします。

町民の皆様の声を行政に直接反映させる広報・広聴活動は、町政運営において大変重要であると認識しております。就任以前より、町政に対して熱い思いを持っておられる方々から、様々な御意見を拝聴してまいりました。これらの御意見は、今後の施策を検討する上で大いに参考にさせていただくつもりであります。

私自身も、町内各地へ積極的に出向き、町民の皆様と直接お話をする機会を増やしたいと考えております。具体的には、自治会長会議の場を通じて各自治会の皆様に行行政懇談会の御案内をすることはもちろんのこと、自治会に限定せず、お声がけいただければ、日程を調整し、出向かさせていただきます。

また、日野町内で多岐にわたる活動をされている方々がいらっしゃいますので、そうした皆様

の活動の場にも伺い、忌憚のない御意見を拝聴したいと考えております。

全町民を対象とした行政意識調査につきましても、その重要性は理解しております。これまでも幸福度調査や町外における他出子の意識調査、そして男女共同参画に関する調査などを実施してまいりました。

今後も、町の現状や課題を把握し、よりよいまちづくりを進めるために必要と判断される場合には、積極的に調査を実施してまいりたいと考えております。

次に、町の情報発信についてどのように取り組んでいくのかとの御質問にお答えします。

日野町の魅力を内外に伝え、町民の皆様に寄り添った情報提供を行うことは、まちづくりに不可欠であると認識しております。

現在、町では、広報ひのやチャンネルひの、行政防災無線、そして公式アプリ、公式ホームページといった多様な媒体を活用し、情報発信に努めております。これらの取組により、町民の皆様への情報発信はそれなりに浸透してきていると感じております。

しかしながら、インスタグラム、エックスやユーチューブといった、主には町外に向けた情報発信については、まだ改善の余地があると考えております。特に近年推進しております関係人口や移住定住の促進を図るためには、町外の方々にも日野町の魅力を効果的に伝える必要があります。そのため、今後は公式ウェブサイトやSNS、動画コンテンツの質を一層向上させていくとともに、どのような情報発信の手法が最も効果的であるかについて、専門的な知見も参考にしながらさらに研究を深めていきたいと考えております。

日野町の豊かな自然、温かい人々、そして独自の文化をより魅力的な形で発信できるよう取り組んでまいります。

最後に、風力発電事業についての町長の考え方についての御質問にお答えします。

現事業計画には、その実現性に懸念を持っております。計画変更により発電装置の基数が減少した代わりに、単機出力が増加しています。計画されている6.5メガワットの発電装置は、日本国内で地上風力発電としての実績はなく、世界でも山間部での運用実績は確認できません。技術リスクの高まる計画変更にもかかわらず、事業会社は慎重さを欠き、安全性、実現性検討は不十分との認識です。事業会社のメッセージにある、事実に基づいた明確で透明性のある説明がなされない、十分示されない限り、賛成はできません。

以上、御質問にお答えいたしました。

○議長（中原 信男君） 7番、松本利秋議員。

○議員（7番 松本 利秋君） そうしますと、再度質問をさせていただきます。

広聴活動でございますけれども、行政懇談会は町民の声を聞くことと併せて行政側から事業の説明ができますので、効率的な行政推進、まちづくりができるのではないかと考えてございます。私の経験から申しますと、この活動は町民、自治会等からの要請を待つのではなく、出かかりますので日程を決めてくださいということでやっておりました。これが積極行政で、今度町長が申される明日が楽しみな町の推進につながると確信をしております。

私は30年ほど前からオンドリのボランティアをしていますが、平井知事さんもお見えになりました。それから、皇族の方にも来ていただき、大変うれしく思った限りでございます。

行政推進のために今度町長は、先ほど町民に出向くと申されましたが、これは手段でございますけれども、特に町長が訴えることなど決意がありましたら、再度お聞かせ願いたいと思っておりますけれども。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えいたします。

三現主義というのを掲げております。議員の質問の当初のほうにも入っておりましたけれども、出かけていく行政、それが重要だと思っております。政策懇談会については、日程を定めて出かけていくということではありますが、予定して行くだけではなくて、ふだん、日常茶飯事的にできるだけ町内をお邪魔して、生の声をお聞きしたいと思っております。

また、懇談会という形を取ると、やはり生の声が聞きづらい、生の現実、実情が聞きづらいというふうに考えておりますし、またそれは私の経験でも、構えたところでは事実が把握できないというふうに考えていますので、訪問しますよという宣言することなくお邪魔して、現実を見させていただきたいといえますか、知りたいなと思っております。そういうような姿勢で現場を大事に行政を進めていきたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 7番、松本利秋議員。

○議員（7番 松本 利秋君） 今町長がおっしゃいました思いでとにかく進めていただきたいと町民の方も恐らく思っておられるのではないかと思いますので。

そうしますと、それから先ほど申しました次に行政意識調査についてでございますけれども、このことにつきましても私ずっと前から言い続けてきておりますけれども、やっぱり計画を策定するには必須のものではないかというように思うわけでございます。私が勤務した折には5年ごとに実施して変化なり傾向を見ておりましたので、これも一つの参考になりはしないかと申し添えます。

それから、次に情報発信でございますけれども、先ほども話が出ましたが、私は写真撮影でい

ろんなどここに行きますけれども、岡山県の美咲町、卵かけ御飯というのを知ったもんですから行ってみましたら、行列ができて大勢のにぎわっておりましたが、その中で若い方5名ほどが、男女5名ほどがおられ、ちょっと聞いてみましたら、インターネットを見て来たのと、面白そうで、おいしそうと言われたかもしれませんけれども、私は面白そうと聞こえましたけれども、大阪から来ておられました。

それから、日野町では金持神社売店で面会した人は、NHKラジオで金持神社の放送を聞いて、それから3年後に退職し、三輪のオートバイで群馬県高崎市から850キロで来られたと伺いました。感じたのは、いかにPRが大事であるかを知らせたようなわけでございます。

若者には先ほども町長おっしゃいましたけれどもインターネットで、やはり我々の高齢者にはペーパーの情報をすることではないかと思うわけでございます。

それで、情報発信については全てでよく頑張っておられ、職員、関係者に敬意を申し上げますが、私が言いたいのは、広報発信の考え方に少しピントがずれているではないかというように、大変失礼な言い方かもしれませんが、それと各課ばらばらの発信のように私は思いますが、町長はどう思われますでしょうか。どうしたらいいでしょうか、この辺について町長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 情報発信の仕方、特に町外にということであるかと思えます。その辺について考えを申し上げます。

まず、現在、先ほど卵かけ御飯とか金持神社とか、インターネットを見て訪問先を選んではというふうな傾向は、そのとおりだと思っています。やはり休日にどこかに出かけようというふうなことを考えた場合に、今はインターネットで検索をして、検索で引っかかったところに出向くということになると思いますので、インターネットでの発信というのは大切だと思っています。

それから、情報発信の仕方としては、訪問していただいて、その後の口コミというものが大事だと思っていますので、来ていただいただけでなくて、よい印象を持って帰っていただく、そして口コミをしていただく。今、口コミということも非常に情報発信の上では大切だと思っていますので、そういったものが広がるように、まさにそういうものが関係人口でありますから、そういった視点が大切だと思っています。

そして、各課ばらばら、情報発信が統一されていないという御指摘かと思えます。その辺については、日野町のホームページについても、あと金持テラスとかオシドリ小屋とか、そういったエックスもありますけれども、インスタもありますけれども、それぞれ発信する内容は違いますが

で、それぞれ設定されているわけですが、日野町のホームページについては町民発信の役割も大きいですが、外から見ていただくという部分もありますので、見直しというのも今後考えていかなければいけないなと思っております。その辺は今から考えていきます。ありがとうございます。

○議長（中原 信男君） 7番、松本利秋議員。

○議員（7番 松本 利秋君） そうしますと、今、町長からホームページのことが出ましたので、私ちょっと気になることがありますので、しゃべらせてもらえりゃあ思いますが、そのホームページ、日野町の観光ページをスマホで見ました。町長、見てください、今はいけませんけれども。私の見る目がちょっと悪いでしょうかね、非常に写真が悪い。これを見ては、私は来る気になれません。とやかく小さいことは言いませんけれども、終わってから見てくださいます。一層の精進が望まれるじゃないかというように思うわけです。

発信PRの重要性を認識していただいたわけですが、町長もおっしゃいましたように、質の向上を願うものでございます。口コミも大切ですし、私はボランティアで必ずこうこうこうでいうことでPRをしておりますけれども、そういうことで回答をいただきましたので、これについては返答は要りません。

そうしますと、もう一つの風力発電事業についてでございますけれども、風力発電事業については、人体への影響、災害、環境など懸念されることの払拭がない限り進めるべきではないと、日野町、江府町、伯耆町3町長が一丸となって事業計画に反対で取り組んでおられます。もちろん、先ほども言いましたように議会も反対でございますが。近藤町長は事実に基づいた十分な説明がなければ賛成できませんと申されましたが、発電事業に反対ということで受け取っていいでしょうか、再度質問いたします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 風力発電事業についての御質問であります。

かねてから申し上げてるとおり、風力発電に限らず、感情とか思い込みとか、そういったもので未来を判断いたしませんというのが私の姿勢でありますので、風力発電についても同様でございます。

今の私の立場は、健康被害、それから土砂災害とかそういった部分も含めて、それから事業が継続的になされなければ、途中で放棄されるとそれはまたそれで問題でありますので、そういった安全性、それから事業の継続性、健康への被害、これは安全性に入るかもしれません。そういったところがきっちりと事実に基づいて示されて、まずは私自身が腹落ちしなければいけないん

ですけれども、併せて町民の方が腹落ちできるような説明がなされなければ賛成はできないという態度であります。

反対かという言葉でありますけれども、今は私の姿勢としては、きっちりと説明してくださいと、それがなされなければ、腹落ちしなければ賛成しませんよという立場でありますので、反対というのとは微妙に違うかもしれませんけれども、賛成できないという立場でございます。以上であります。

○議長（中原 信男君） 7番、松本利秋議員。

○議員（7番 松本 利秋君） 今のままでは賛成できないということですね。それで、今町民の方、町としても、3町が一緒になってとにかくいけないと、反対であるということで国までも、知事さんと同じくとにかく上がっておるような状態でございますので、そういうことも踏まえてどうかということで質問したわけでございますけれどもね。

○議長（中原 信男君） 松本議員、質問ですか、今のは。

○議員（7番 松本 利秋君） はい、それで自分が納得しなければならないということであれば、今の進めとる、そこら辺にもちょっと矛盾もあれへんだらあかな思うわけでございますけれども。

○議長（中原 信男君） いや、その矛盾というところを質問するに当たって、何か今、3町がどうのこうのいうところも述べられておったけども。

○議員（7番 松本 利秋君） 設置が予定されている3町、江府町、伯耆町、日野町ですね、これが一緒になってとにかく反対であるということで取り組んでおられるわけでございますので、そこら辺にも歩調を合わせてやっていかれんと、これまでのことがもう無駄に、無駄になる言やあおかしいですけれども、そこら辺があるもんですから。

○議長（中原 信男君） 松本議員、確認しますよ、質問の趣旨を。近藤町長に質問するに当たって、3町の今までの従来の取組とか、そういうところにも同意されるかということの質問かな。そういう質問ですか。そういう考えですかという質問を町長にぶつけたんですか。

○議員（7番 松本 利秋君） 頭はどう思っておられるかどげなか……（発言する者あり）

○議長（中原 信男君） どうですか。

○議員（7番 松本 利秋君） はい、議長が言われたそのこと。

○議長（中原 信男君） 3町の取組についての考えについて質問されたのか、今までの。

○議員（7番 松本 利秋君） そういう3町が取り組んだるわけですので、このことについての……。

○議長（中原 信男君） 踏襲するかと。

○議員（7番 松本 利秋君） うん。

○議長（中原 信男君） その流れをくむかというようなことかな。

○議員（7番 松本 利秋君） そうそう、そうそう。

○議長（中原 信男君） はいはい。

近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 今3町連携して、県とも歩調合わせて、経産のほうに陳情に行ったりしています。そこについては、今歩調を乱すつもりは全くなくて、私自身も先ほどから申し上げるとおり、微妙な言い方に捉えられるかもしれないですけど、賛成はできないと、立場には変わりはありませんし、その辺の考え方については日野町が独自に判断するという考え方はなくて、歩調を合わせながら、同じ地域に住む住民の方の不安を解消できない限りはというのは3町いずれも同じ考え方、県も併せてだと思しますので、その辺は歩調を乱すつもりは全くなくて、連携しながら対応していきたいなという姿勢であります。以上です。

○議長（中原 信男君） 7番、松本利秋議員。

○議員（7番 松本 利秋君） 私が思っとるのはよく分かりました。

そうしますと、時間も相当残っておるようでございますけれども、前向きな町長の答弁をいただきましたので、私の質問はこれで終わります。ありがとうございました。

○議長（中原 信男君） 7番、松本利秋議員の一般質問が終わりました。

○議長（中原 信男君） 次に、2番、小河久人議員の一般質問を許します。

2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） それでは、通告に基づきまして町長に質問したいと思います。

1点目に質問事項といたしまして、日野町の教育について伺います。

質問の趣旨、背景といたしまして、施政方針において国際バカロレアプログラムの認定に通じて実現性、妥当性の検討を掲げております。そこで、人口減少や少子化が進む中であっても子供たち一人一人に世界とつながる学びの機会を保障していくことは、本町の将来を支える大切な投資であると考えております。しかし、一方で、教室の中で完結する学びではどうしても実感を持った国際理解や多文化共生の感覚を身につけることは難しい面があります。

そこで、具体的に回答を求める事項といたしましては、1問目として、本町としてどのような資質や能力を備えた子供を育てていきたいのか、その子供像、目標像をお聞かせください。

2問目として、IBプログラムを通じて国際教育を進めていくに当たり、その理念を実体験と

し、子供たちに感じてもらう具体策として海外派遣事業を検討してはどうかと考えますが、見解を伺います。

2点目の質問事項といたしましては、農業問題について伺います。

質問の趣旨、背景といたしましては、本町では高齢化や後継者不足により農業の担い手が減少し、農地の耕作放棄が着実に増えてきていると思われまます。もはや現状の担い手だけでは将来の農地保全を賄い切れない段階に来ていると考えられます。そこで、日野町新・農業推進プランを策定されました。施政方針でもスマート農業を導入する対策も促進すると掲げられました。

そこで、具体的に回答を求める事項といたしましては、1問目として、高齢化が進み、小規模で分散したほ場が多い本町の実情を踏まえ、どのようなスマート農業技術を優先して導入していくのか伺います。

2問目として、今後どのような具体策をお考えでしょうか。次の3点について質問します。1点目、担い手の確保・育成、2点目、水路維持管理、3点目、企業との連携。

3問目として、現在の耕作放棄地の状況と将来見通しをどのように認識しているのかお聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えいたします。

初めに、本町としてどのような資質や能力を備えた子供を育てていきたいのか、その子供像、目標像についての御質問にお答えします。

探求する姿勢、物事の真実を追求する考え方を備えた子供に育てていきたいと考えています。課題に向き合うとき、その課題の根本原因をきっちり探求して真実を突き詰める資質、能力であります。

次に、IBプログラムを通じて国際教育を進めていくに当たり、海外派遣事業を検討してはどうかの御質問にお答えします。

異国の文化を学ぶことは、その国の背景にある価値観を理解し、視野を広げ、柔軟な考えを身につけることにつながります。また、日本の文化を再認識できるよい機会にもなります。そのためには、海外派遣が単なる観光や見学にならないよう、事前学習をしっかりと行い、探求テーマを設定し、現地でフィールドワークができるような環境・体制づくりが必要です。また、帰国後に報告会を開催するなど、派遣事業の成果を確認したり派遣されなかった児童生徒の理解を深めることも忘れてはなりません。

ただし、課題もあります。例えば受入先の問題です。現在交流している海外の都市や教育機関

がないため、新しく開拓が必要になります。そういった派遣先の検討やプログラムを作成するノウハウもありません。また、現在の国際情勢は非常に不安定なため安全面や、円安による現地での高額な出費なども不安材料に上げられます。

多様な文化を理解、尊重し、よりよい平和な世界を築く人材を育成するには、海外派遣は有効な手段の一つであると考えますが、これらの課題を念頭に置き、海外派遣を行っている自治体の情報を確認しながら、改めて取り組むべきかどうか考えたいと思います。

次に、高齢化が進み、小規模で分散したほ場が多い本町の実情を踏まえ、どのようなスマート農業技術を優先して導入していくのかとの御質問にお答えします。

優先して導入を図るスマート農業技術については、事業体及び集落協定組織ごとの経営判断により導入を行うこととなりますが、小規模で分散した高低差のあるほ場が多い本町の実情を踏まえ、経済性、汎用性、作業内容、効果等を考慮し、助言、支援を行っております。

また、現在は農業機械だけでなく、栽培管理システムなどスマートフォンアプリを活用した経営効率化のためのスマート農業システムも浸透しつつあり、町内でも導入されている農業者もあります。

本町としても、農業における省力・軽労化や労働力の確保、技術継承に向けたスマート農業技術を推進し、それぞれの事業体及び集落において導入を希望される場合があれば、積極的に支援していきたいと考えます。

次に、今後の具体策について3点御質問をいただきました。

まず、1点目の担い手の確保・育成についてお答えします。

昨年度策定した地域計画において、本町の耕作地345ヘクタールのうち、約290ヘクタールを守るべき農地として定めたところではありますが、そのうち10年後、令和17年度になりますけれども、の耕作者が特定できていない農地が約200ヘクタールと、大半の農地が将来荒廃農地となる懸念があります。

その対策としまして、今年度策定した日野町新・農業推進プランでは、一丁目一番地に担い手の確保を掲げ、推進を図ることとしています。

具体的な取組としましては、地域おこし協力隊員を日野町農林振興公社に配置し、町内の担い手農家の元へ派遣し、研修を行うものです。任期満了後は、新規認定就農者として独立することを目指していただくことを目標としております。

現在、町内で活躍いただいている担い手農家向きの支援としましては、農業生産拡大に向けたスマート農業推進事業費補助金や中山間を支える水田農業支援事業費補助金によって農業機械の

導入を支援し、地域農業の受け手となる中核的農業者の育成を図ってまいります。

次に、2点目の水路維持管理についてです。

農業用水路の維持管理は、高齢化や担い手不足及び農業農村整備事業により整備された農業用水利施設の多くはかなり年数が経過しており、多大な労力負担となっているため、本町の重要な課題となっております。

そこで、本町では集落を維持し、継続的な農業を行うために、中山間地域等直接支払い事業などの日本型直接支払制度を有効に活用していただき、地域の方々と保全管理を協業することにより、地域ぐるみの共同作業を支援する取組を推進しております。

また、住民だけでは草刈り、水路清掃といった農地周辺の維持管理が困難となっている集落には、大学生等による農村ボランティアを派遣し、労力の補完を行うとともに、農村交流の増進を図っております。

水路改修事業については、国、県の補助を受けながら、今後も引き続き地元の要望に対応していきたいと考えております。

3点目の企業との連携についてです。

農業分野においては、町内農家が生産した農産物を原料にした加工品を町外の企業に製造委託し、販売されているケースはあるものの、いずれも小規模なものに限られているのが現状であります。企業との連携を進めていくためには、農産物の安定した供給量や品質、さらには生産体制の確立が前提となるため、町としましては日野町新・農業推進プランに定めた特産品目など、主要作物の産地形成をまずは進めてまいりたいと思います。

また、連携先の企業につきましては、町外はもちろんですが、町内の建設業者等による異業種参入も視野に入れ、そうしたチャレンジに対しても支援したいと考えております。

最後に、現在の耕作放棄地の現状と将来見通しをどのように認識しているのかとの御質問にお答えします。

現在の耕作放棄地の状況としましては、農業委員会が毎年行っている利用状況調査において、放置されて1年以上3年以内の農地が現在約14ヘクタールあり、そのうち令和7年度に新規発生となるものが約12ヘクタールあります。このうち、守るべき農地として地域計画に定めている農地は約4ヘクタールでした。

地域計画において、耕作している農地345ヘクタールのうち約50ヘクタールは条件不利地がほとんどであるため、いずれは山に返す農地としており、やむを得ないものとして認識しておりますが、守るべき農地としていた農地約4ヘクタールが耕作放棄地となったことについては、

担い手を確保・育成し、対策を講ずる必要があるものと認識していますので、先ほど申し上げましたとおり、日野町新・農業推進プランにおいて対策を講じてまいります。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 日野町の教育についての町長の答弁に対する再質問をさせていただきます。

1問目の探求する姿勢や真実を追求する力は、これからの社会においても非常に重要であると私も感じております。とりわけ現在は情報があふれており、その真意を見極める力や自ら考えて判断する力が求められてきます。そのような中で、単なる知識の習得にとどまらず、実体験を通じて物事の本質に迫る学びが重要になるかと考えます。

町長が考える探求する力、真実を追求する力とは、具体的にどのような場面や学びの中で育まれるものとお考えでしょうか、お聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 探求する力、真実を追求する力、それはどういった場面で、どういった教育の仕方ですと身につくかという御質問であります。

議員がおっしゃるとおり、教室で知識を得るだけではその辺は身につかなくて、一つは議論、ディベート、ディベートはちょっと相手をやりこますという部分があるのでちょっと違うかもしれませんが、仲間、同級生、それから地域に出かけたフィールドワーク、そういったところで身につけていくというのも、議論をしながら相手の考え方を理解し、認める、そういったことを繰り返しながら身につけていくのかなと思っています。

それから、重要なのはやはり成功体験ですね。それが大切でありまして、ある課題を深掘りをしていって、私いろんなところでしゃべってますけれども、探求をしていって真実を追求して、その真実、根本原因を見つけて、それを裏返しすれば解決につながります。そういうふうには、表面的な、よくパッチ当ての対策ではなくて、これが真実だと信じて児童生徒はその対策を取ってみるとよい成果が生まれる、そういう成功体験を味わうところまで深掘りさせる、そういったところが重要なかなと思っています。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） きめ細やかな説明をありがとうございます。

小中一貫教育である日野学園の中で、子供たちの様々な取組をされていると思われまます。先ほどおっしゃったことを今後どのように日野学園で発展させていこうとお考えでしょうか、お聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えいたします。

日野学園については、先日卒業式にお邪魔して、姿を拝見しました。9学年通しの学校になっていて、その姿を見たのは初めてでしたのでいろいろと思うところがありましたけれども、その中で感じましたのは、小さな1年生から、それから次は高校に行くよ、次の社会に進むよという9年生まで、同じ敷地、キャンパスで一緒に活動していますので、そういったところで前期課程の小さい子供たちはお兄さんの姿を見ながら刺激も受けると思いますし、逆にこうあってはいけないなという部分も感じるのかもしれないですけれども、9年間、9学年が一斉にいるところは、そういった刺激がなる。それから、後期課程のお兄さん、お姉さんは、小さい子供たちに説明してあげるとい部分ができますので、その説明ができる能力という部分も重要だなと思っております。

探求の学習に限らないことになっていきますけれども、義務教育学校9年間で同じキャンパスで過ごす、そういったところをしっかりと活用しながら、高学年から学ぶ、小さい子供たちにきっちりと説明してあげる、そういうことができるためには、特に説明するためには、物事の本心が分かっていないとできないことですから、そういう説明をする中で育まれるのではないかなと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） こういうことを定期的に検証を行い、教育施策や学校支援へのフィードバックを通じて、さらなる発展を期待しております。

次に移ります。2問目の海外派遣事業についての町長の答弁に対する再質問をさせていただきます。

現在、円安や物価高の影響により、海外派遣の実施が難しい状況にあることは理解いたしました。また、安全面や受入れ体制の課題についても認識いたしました。

しかし、ゼロからのスタートは、現在の町の実情に即した実利のある交流を結べる絶好の機会と捉えられないのか。教育や特産品の販路開拓もやっております。特化したピンポイントな交流提携を目標に、生徒を連れ、調査だけでも始められないか伺います。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 海外派遣についての御質問です。

ゼロからでありますから、これがいいチャンスなのではないかという御指摘であります。両面ありまして、ゼロからですから試行錯誤しながらということになりますし、前例がないですので、

自由な取組といたしますか、新しい視点で取り組めるという部分もございます。両面がございます。

まずは取り組むに当たって、ゼロからのスタートになりますけれども、よその周囲の自治体等を見てみますと、既に姉妹関係ですとか何かの交流があつて、それを起点に生徒児童を派遣するというようなところがあるようです。日野町について、今は姉妹都市とかはないわけでありませけれども、かつて海外と交流があつたものもあつて、昨日出ましたけれども、木山さんはサンフランシスコに滞在されたというものでありますので、かつては日野町の方々も海外で交流されたということもありますから、木山さんに限らず、そういったきっかけを持って手探りに進めていくのかなと思っております。

あと、円安ですとか国際情勢不安とか、そういったものはありますけれども、まさに国際情勢不安というのは日本がこうであるけれど海外はこういう状態だということを感じる部分でもありますので、危険にさらすわけにはいきませんが、海外に派遣することを検討する中で我々町民も認識する部分でもありますし、そうですね、そういう準備をする段階で難しいところを児童生徒が感じ取ってもいいのかなと思っております。

私は、町として児童生徒を育てる必要があると思っておりますけれども、よくといたしますか、親御さんはそうだと私は思っておりますけれども、子供を育てることで自分が成長するということがございます。育てる、そして育てる自分が育つということがありますので、こういった海外派遣を検討する中で我々も海外との在り方というのを学びながら、よい方向に向かっていけたらなと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） そのような中で海外派遣がすぐに実現できなくても、子供たちが異文化に触れる機会をどのように確保していくのがまた重要になってくると考えました。

そこで、一つの手法として、国際交流員や外国語指導助手の活用が考えられます。本町として、海外派遣が難しい状況においても、国際交流員等の導入を含め、日常的に異文化に触れられる環境づくりについてどのようにお考えであるかお聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 国際交流がなかなかできない中で、どういった異文化交流ができるかという御質問です。

国際交流員については、そういった制度というか仕組みについてはよくよく検討しなければいけないと思っております。さらに私が考えますのは、日野学園は昨年でしたか、図書館の活動で表彰を受けました。非常に図書館教育に力が入っていて、表彰を受けるようなところでありませ

で、間接的ではありますがけれども、図書とかそういったところで視点を児童生徒が図書を充実する、それから活用する仕方を学んで、海外の様子等を、図書に限らず日常的なメディアもたくさんありますから、そういったものも活用しながらまずは広げていく。広げるというか、意識を向けていくのが大事かなと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 他町に先んじた小中一貫教育の成果を日常的な刺激や海外派遣という大きな目標へとつなげていく、これこそが本町ならではの選ばれる教育の姿ではないかと考えております。子供たちの可能性を最大限に引き出すための前向きな施策展開を強く要望いたしまして、次に移ります。

農業問題についての町長の答弁に対する再質問をさせていただきます。

1問目のスマート農業推進に対する積極的な姿勢、特に地域の実情に応じたきめ細やかな施政方針には、農業者にとって期待しております。その上で、国の政策や他町の取組との連携により、より強力な支援が可能になると考えております。初期費用が大変高額になることが予想されますので、国や県の補助金制度を活用する場合、町の独自財源による上乘せ支援を検討してもよいと考えますが、どうでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えします。

スマート農業等を導入するに当たって、費用が高額になるので、県、国の補助金に加えて単町でのという御質問、御指摘であります。

可能性としてはもちろん検討していかねばなりませんけれども、そもそも日野町の急峻な小さい農地、ほ場でどういったスマート農業が適切なのか、そういったものを見極めて検討していかねばいけないと思っております。

まず、費用というところよりも、どういったものが可能であるかと。先ほどの答弁でもお話ししましたけれども、スマート農業というのは機械だけではなくて、アプリケーションですね、それから経営の管理ですとか育成状況の管理ですとか、そういったソフト的な部分もございますので、そういった部分が日野町の現状にマッチしているのであればその導入、そして係る費用ですね、ソフトウェアに関する支援がどういったものがあるのか、補助金ですね、そういったものもよく検討した上で、効果的な単町での取組があるということであれば検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 前向きな答弁ありがとうございます。

経済的負担の軽減は、スマート農業導入のハードルを下げる上で不可欠だと考えております。しかし、これらの制度は多岐にわたり、地域の実情や農業経営体の規模によって、その適用範囲や効果は異なると考えております。より実用性の高い運用を目指すためにも、国や県の制度でカバーし切れないきめ細やかな支援が必要な集落や個別の農家のニーズをどのように把握し、それらに対してどのような対策を講じていくお考えでしょうか、お聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えします。

実情に沿ったきめ細やかな支援が必要ということでございました。実情に合った支援というものが必要でありまして、こういう小さなほ場、それから急峻な農地というのは日野町に限ったことではなくて、この中国山地、同じような自治体、町村がありますので、そこの部分の先進事例もよく見ながら、きっと成功している事例もあると思いますし、あるようですから、どういった取組、どういった支援をして成功したかというようなのもよく勉強して、適切な支援ですね、そういうものをよく研究していきたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 2問目の1点目の担い手確保・育成に移ります。

地域おこし協力隊の活用や認定就農者としての独立支援は、担い手政策として期待できるものです。しかし、担い手が独立定着していただくためには、安定した農地の確保が不可欠であります。この点について、どのように農地確保につなげていくのか伺います。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 担い手についての御質問です。

協力隊をきっかけにした後継者づくり、担い手づくりという御説明をいたしました。3年間という期限が終わった後にどう就農していただくかといったところです。農地の確保という部分と、それと関連すると思いますけれども、きちりと収益が上がると。収益が上がらない限りは継続していただけないので、そういった農地の確保といいますが、農地の確保も含めた収益の確保ですね、そういった部分が必要になってくると思います。3年間が終わったので、はい御苦労さまでしたというわけにはいきませんので、3年間修業してもらいますけれども、その後どのように日野町に残って、例えば一旦は農業からちょっと休憩するけれども、違う職種ですね、継続しながら日野町にいてもらって、よく機会を見ながら就労してもらおうというような支援も必要だと思っております。3年終わって残念でしたというふうにならないように、そういった対策が必要だ

と思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 2点目の水路維持管理について移ります。

日本型直接支払制度を有効に活用していただきと詳細に御答弁していただきました。特に農地維持支払いと資源向上支払いの2つの交付金を活用することだと思えます。この2つの交付金は、地域の共同活動を支援し、農地の多面的機能の維持・発揮を図る上で非常に重要な役割を担います。

しかし、現実には交付金制度が複雑であることや活動している人たちの高齢化、事務負担の増大などの指摘もされております。どのように簡素化、効率化を考えていますでしょうか、お聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 日本型直接支払制度に関する御質問であります。

この制度は交付金が出るわけですが、議員が感じられてるとおり、役に立つ有効な部分もありますけれども、そもそも交付金があっても担い手がいないというのは現状でありますので、この辺の制度については町が見直すというわけにはいきませんから、使い方についてはよく勉強しながら、必要な是正があれば国、県に働きかけたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 分かりやすい説明会の開催や動画コンテンツを用いた制度開設など、理解を深めるための取組はあるのでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 今のところは説明会、この制度についてということですね、ありませんけれども、よく研究してみたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） この問題は、単に情報提供の方法にとどまらず、制度を理解し、円滑にするための中核をなすものであり、継続性を左右すると言っても過言ではないと思われまますので、よろしく願いいたします。

次に移ります。3点目の企業との連携についてです。

農業における担い手不足や高齢化が深刻化する中で、企業の農業参入は新たな活力をもたらし、地域の活性化につながるものとして期待できます。建設業は大規模な機械や重機の扱いが慣れているため、スマート農業機械の導入にも適応しやすいと考えられます。また、地域に根差した企

業が多い建設業が農業参入することは、地域の雇用確保や遊休地の活用にも貢献する可能性を秘めております。

しかしながら、農業参入してもらうには農業技術指導、販路開拓支援などの具体的に提供できるのか、企業の持つ技術やノウハウとをつなぐマッチング支援の仕組みを考えないといけないと思いますが、どう考えておられるのでしょうか、お聞きします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 異業種参入についての御質問であります。

建設業者等でありませけれども、機械の扱い、慣れていらっしやる所もありますので、そういう活用でできればいいかなと思っております。

ただ、そういう異業種参入に当たっても、営農という部分ですね、そういう経営についてはもちろん建設業の方が農営についてノウハウをお持ちであるわけではありませんので、得意な部分をお願いをして、経営については違う人材をあてがっていかねばいけないなと思っております。

農業振興公社の拡充というのも日野町新・農業推進プランにはありますので、そういう部分で別のところで支援できればな、支援しなければいけないなと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 他町では、町の職員が参入計画の策定から農地獲得の支援、技術指導、販路開拓、規模拡大のアドバイスまで、トータルで伴走支援する体制を整備している町があるみたいです。町もこのようなサポートする体制を構築していくように考えていかねばいけないと思っておりますが、考えをお聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 支援についての御質問でありますけれども、一つはやはり振興公社の充実といいますか、強化だと思っております。現実なかなか、人員の充足ができていない部分もありますので、そういう部分で町としての支援といいますか、振興公社の充実、そういう部分で前に進めればなと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 町の異業種参入支援が単なる要望への対応にとどまらず、企業の参入から事業の定着、発展、地域経済への貢献までを見据えた戦略的な事業になるよう、検討をよろしく申し上げます。

最後の3問目の耕作放棄地についての町長の答弁に対する再質問をさせていただきます。

認識していただけてるということなので、よかったです。この状況は、単に農地の有効活用にとどまらず、地域農業の持続可能性そのものに関わる重要な問題だと考えております。

そこで、日野町農林公社が率先してスマート農業技術を導入し、モデルとして実績を積み上げる計画はないのでしょうか、お聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えします。

スマート農業に振興公社がもうちょっと支援できないかという御質問かと思います。このところは少し繰り返すにはなりますけれども、現状の振興公社では残念ながらそういった能力は持ち合わせていないので、先ほどから申し上げてるとおり、この辺も含めて農業経営も含めて、それからスマート農業の浸透も含めて、もう少し拡充とか、そういった方向についてよく勉強しなきゃ、研究していかなきゃいけないなと思っています。以上です。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員。

○議員（2番 小河 久人君） 本日このように出てきた方針は、地域農業の持続可能性を高める希望の光となると確信しておりますので、今後計画が着実に実行され、発展していくことを期待し、このたびの一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（中原 信男君） 2番、小河久人議員の一般質問が終わりました。

○議長（中原 信男君） 以上で午前の一般質問を終了いたします。再開は、午後1時15分いたします。午前はこれで終わります。

午前 11時14分休憩

午後 1時15分再開

○議長（中原 信男君） 再開いたします。

午前に引き続き、一般質問を行います。

3番、坪倉敏議員の一般質問を許します。

3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） それでは、午前中に続きまして、町長に施政方針についてお伺いをいたします。

近藤宏町長は、2月24日、新町長に就任されました。本当におめでとうございます。今回は、新町長に就任された最初の施政方針演説であり、議会はもとより、町民、執行部も新町長の基本

方針、行政に対する考え方に並々ならぬ関心、期待を寄せております。

3月6日の町長就任の施政方針演説に対し、詳細をもう少しお尋ねいたしたく、御質問いたします。

まず、1番といたしまして、子育て、教育について。

町長は、少人数の弊害を克服する高品質な教育として一例が挙げられておりますが、町長の教育に対する思い、考え方を伺います。

そして、2番目に交流拠点の整備について。

根雨駅の東西を結ぶ通路の設置及び活動は大胆な構想ですが、この構想に対する方針があればお伺いいたします。

そして、3番、山林の活用について。

伐採適期を迎えた森林産業資源の活用について、町長のお考えを伺います。よろしくお願いたします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 3番、坪倉敏議員の御質問にお答えします。

初めに、教育に対する思い、考え方についての御質問にお答えします。

少人数の弊害として考えられるものとして大きく捉えると、多様性に触れる機会が少ないということです。いろいろな能力や性格を持った人物と触れることで刺激を受けたり手本として学んだりする機会も得ますが、少人数だとその機会を得ることが困難です。小さいくくりで捉えると、学習面やスポーツでの競争ができないこと、チームスポーツや集団での活動ができないことが上げられます。

この少人数による弊害を克服するためには、広い視野を持って、ふだん生活している世界の外に興味を持ち、国内外の情勢や多様な文化、人々の動き、考え方を学ぶことが必要です。また、多様性の中から探求して真実を突き詰める意識、能力を備えさせることが必要だと考えています。これに合致する教育の一つが国際バカロレアであります。

次に、根雨駅の東西を結ぶ通路の設置への構想に対する方針についての御質問にお答えします。

J R根雨駅の東西を結ぶ連絡通路の設置は、単なる移動手段の確保にとどまらず、日野町の未来を開く重要な施策と位置づけております。

この連絡通路の整備は、駅舎自体、根雨地区、隣接する野田地区、そして舟場地区を含めた一体的なまちづくりの中で実現することが不可欠であると考えております。

まず、根雨駅においては、去る2月21日よりみどりの発券機プラスの導入により切符購入の

利便性は向上したものの、巡回駅化によって不便を感じる住民の方々も少なくないかと存じます。この状況を踏まえ、根雨駅の利便性向上について検討を進めてまいります。具体的には、公共交通の案内機能や地域からの情報発信機能を強化するための仕組みづくり、さらには利便性を向上させるための施設の導入など、多角的な視点から検討を進めてまいりたいと考えております。

さらに、根雨駅側と国道側、野田、舟場地域を連絡通路として活用し、有機的に連携させることで、二地域居住やワーケーションの推進、さらには移住定住の促進に向けた拠点として機能させることを目指します。

野田地区には病院や学校などの公共施設が集中しており、隣接する舟場地区も含めて利便性の高い地域でございます。この地域で例えば空き家の利活用と組み合わせることで新たな居住空間や交流拠点を創出し、地域に活気をもたらすよう進めてまいります。その上で、こうふのたよりや山里L o a dにちなんのような、移住定住や地域交流の拠点としての例もあるようですので、近隣団体の例も研究しながら進めたいと思います。

一方で、J R線を横断する工事は、一般的に多額の費用を要するという印象がございます。過去の事例として、米子市の連絡通路整備、また根雨の踏切における歩道設置も高額な費用を要したと伺っております。

これらの事例からも、今回の連絡通路整備事業は、日野町にとって近年まれに見る大規模な事業となることが予想されます。そのため、財源の確保は重要な課題の一つでございます。駅舎の改修や周辺整備と一体的に計画を進めるなど、様々な角度から検討材料を整理し、効果的かつ効率的な事業実施に向けた方策を模索してまいります。この検討には一定のお時間を頂戴することになりますことを御理解いただきたいと思っております。

今後の具体的な計画策定に当たっては、有識者の方々や地域住民の皆様を交えた協議の場を設け、多角的な意見を取り入れながら進めていく所存です。協議の場では、事業の効果的な手法、財源確保策などについて議論し、日野町にとって最善の道筋を策定してまいります。最終的には事業の目的を明確にし、確実な財源を確保した上で本事業を推進してまいります。

最後に、山林の活用及び伐採適期を迎えた森林産業資源の活用についての御質問にお答えします。

戦後造成された人工林の半数以上が伐採適期を迎えている中、これらの森林資源を適切に循環利用していくことは、林業の活性化のみならず、森林の適切な更新による水源涵養機能や土砂災害防止機能といった森林が有する多面的機能の発揮に寄与することから、大変重要であると考えております。

このため、本町では県や林業事業体と連携しながら、間伐や皆伐再造林といった森林整備の推進に取り組んでいるところではございますが、一方で、林業担い手不足や急峻な山が多く森林施業に手間と時間を要するなどの課題も多く、思うように森林整備が進まないという現状がございます。こうした現状を打開していくための対策として、これまでは県造林事業費補助金への上乗せ補助や間伐材等搬出に係る経費に対する補助といった森林所有者の還元に係る補助支援に取り組んできたところですが、今後は林業事業体向けの支援を増やすことも検討し、日野町の山で森林整備を実施していただける林業事業体を増やすことで林業の生産性向上につなげたいと考えております。

また、日野郡3町及び県の連携による日野郡連携会議の取組において、新たな経営林道金持秋縄線の開設事業を令和8年度より着手し、手つかずの森林資源を今後伐採搬出できるよう、路網密度の増強にも努めているところです。

今後も、森林が地域の重要な資源であるとの認識の下、県、関係団体、林業事業体と連携しながら森林の循環利用を進め、次世代につなげる林業振興を図りたいと考えております。以上です。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） 丁寧な御返答いただきまして、ありがとうございます。

それでは、次の質問をさせていただきます。先日、私も日野学園の卒業式に出席いたしまして、町長の、私もここの卒業生だという、これを2回おっしゃいました。私は感慨無量のこの挨拶を本当に聞いて、私も感動いたしました。卒業生、在校生一同、本当に思い出に残る卒業式だったと思います。学校統合を機に義務教育学校日野学園としてスタートし、3年目の卒業生が巣立ちました。そして、町長は、この回答の中にもありますように、少人数学校の弊害を上げられておりますが、私は先生方の御努力により義務教育学校の長所を最大限に取り入れた小規模校ならではの理想的な教育がなされているように思っております。

そこで、ちょっと質問ですけど、設立から3年目の義務教育学校の日野学園の評価を私はもう一度お聞きしたいと思うんですけど、町長いかがでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えいたします。

午前中もお話ししましたが、先日、日野学園の卒業式に招待いただいて参列いたしましたけれども、私も思っていた以上にいい学校だなというふうに感じたというか、感激したところであります。

義務教育学校としてうまく働いているなど思うのは、午前中にも関連した発言をいたしましたけれ

ども、9学年が一つのキャンパスで、敷地で一緒に過ごしている、学習しているというところがあります。私、卒業式では非常に感激したわけですがけれども、最初は中学校の卒業式と、こういうようなことを祝辞の中でも少し触れたような気がしますけれども、中学校の卒業式というイメージで学校に到着したわけですがけれども、奥のほうから小さい1年生、2年生の声が聞こえてくるというところでちょっと、ある意味ペースを乱してしまったというところがあります。むさくらしい中学生たちがいる学校の、中学校の卒業というイメージでしたから、ちょっとペースが狂ってしまいました。

そして、式が始まって国歌斉唱なわけですがけれども、1年生が、あの小さな1年生が大きな声で元気よく「君が代」を歌っているという姿は、9学年がいる学校の中でお兄さん、お姉さんと「君が代」も練習してるんでしょうから、そういったところで元気のいい「君が代」というのが、またこれが想定外というか、感心したところでもあります。そういったところはやはり9学年がそろっているところで、上の学年を見ながら学んでいるところがあるんだろうなと思いますし、それから、1年生、2年生の小さな児童が大きな、私よりも背の高い男の子もいましたけれども、そういった9年生を歌を歌って送り出すという姿は義務教育学校一貫してというところで、いい成果が上がってるのかなと思っています。

世の中、中高一貫校というのは、日野町の都合とは違った意味で中高一貫校というのは増えていきますけれども、キャンパスが別であったりとか、組織は一緒であっても隣の敷地とか、そういうのがありますけれども、あまり広くない敷地の中に9学年がいるというのは、そういった部分がよろしいかなと思いました。

それから、卒業式には関係しないんですけれども、またこれも午前申し上げましたけれども、図書館をうまく活用して、あそこ玄関入って正面が図書館ですがけれども、図書館はやっぱり小規模なところでもありますけれども、そういった図書を使って世界を知る。あの図書館も9学年分の、小学校の分と中学校の分がそろった図書館でありますので、小学校からすると背伸びをして勉強できるというようなところもあるんだなというふう感じたところでもあります。

ですので、想定以上にいい学校だなというのが印象ではありますが、さらに日野町が誇れる義務教育学校にして、日野町で育てる子供たちが立派に育っていくようにしなければいけないなということも改めて感じたところでもあります。以上です。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） 次の教育の話なんですけれども、町長、ちょっと私、勘違いされてるんじゃないかなと思うことがあるんで、もう一つちょっとお話ししたいと思うんですけど、

この回答書の中でスポーツなんかの競争ができないとかチームスポーツや集団での活動ができないというようなことがちょっと上げられておるんですけども、私の感覚では、これはクラブ活動の分野なんですけれども、このたびソフトテニス部が日野ジュニア、もう一回言います、日野ジュニアというチームを編成して全国大会に出場します。これは日野郡の小学生が合同で今、強化練習をしてるんですけども、広域行政ではないんですが、もう既に子供の世界では他校との合同でチームを編成して全国大会に向かっていくと、そういう具合になっております。

それで、私はこういうことが全国に行ったときにでも小学生の交流の輪が大変生まれるんじゃないかなと。だから、スポーツを通じて、ある程度小規模校じゃない、もっともっと広いところでもつながりができるんじゃないかなと、そういう具合に感じております。

それから、この話はなかったんですけど、今の町長の話にも。私は、まだたった3回しか卒業生を出してない浅い歴史の日野学園ですけど、ちょっと生臭い話になりますが、私は先輩たちの努力で今年の高校の進学実績も十分に達成されているんじゃないかと、そういう具合に感じております。

そこで、私は町長にお願いといたしますか、質問なんですけど、私は町長にやっていただきたいのは、子育て中の若いお父さんやお母さん方に義務教育学校日野学園は素晴らしい学校ですよと、9年間この学校に預けてくださいと、見違えるような子供さんに成長しますよと、そういうことをまず私は町長が率先して宣伝をしていただきたいと。町内外の子育て世代に義務教育学校の特色をアピールして、町長がおっしゃるような若年女性の人口をまず呼び戻していただきたい。これが先決だと思いますけど、町長いかが思われますか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えいたします。

まず、スポーツのところを触れられましたので、そのところからお話をしますと、今クラブ活動は学校から離れて活動するというのは全国的な流れでありますので、こういった小規模、日野郡に限らず、他地域と一緒にというか、学校から離れてという動きになっていきますので、日野郡内で連携するというのはあるということですし、その辺は私も承知しております。

ただ、クラブ活動はそうではありますけれども、授業の中に体育があるわけですから、体育の中で私たちはソフトボールをやったりバレーボールやったりバスケやったりしましたけれども、そういった授業の体育の中で不都合といたしますか、難しいだろうなというところは小規模校の部分だと思っております。

その対策として、他校と一緒にクラブ活動、スポーツに限らないですね、吹奏楽部と

か、そういった部分もあると思いますけれども、そういうのは進めなければいけないなと思っています。

そして、あとはアピールというところではありますが、私は消滅可能性自治体からの脱却というのを掲げて、その対策として若年人口を増やすと。若年人口というのは子育て世代だと。子育て世代の関心は教育だというふうな流れで施政方針の中でも一番最初に教育を取り上げたということでもありますので、教育は非常に重要なものだと認識しておりますし、私の取組の中での一丁目一番地であります。

施政方針の中でも触れたと認識していますけれども、高品質な教育によって人を呼び込むという考えでいますので、当然ながら、呼び込むということですからアピールをしなければいけませんし、私、就任してからいろいろとメディアからもインタビューを受けますけれども、必ず取り上げているのは教育と、いつも取り上げてるのは日野病院なんですけど、この2つを取り上げています。

若年人口、教育世代を取り込むための非常に重要な部分でありますので、アピールは当然しますし、アピールだけでなくて実感する、実感するといいますか、実際に日野町から日野学園を卒業する子が9年間の義務教育を終えて立派に巣立っていってもらうことが何よりの目標でありますので、アピールはもちろんしますけれども、当然ながら実績としてさらにさらによくすることが使命だと思っています。以上であります。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） 教育については、午前中の小河君の質問でも個性のある子供たちをつくりたいというようなこともおっしゃってましたんで、私は教育についてはこれぐらいにしときたいと思います。

それでは、根雨駅の整備について、もう少し町長にお尋ねしたいと思います。

東西の通路整備は、これはもう日野町の未来を左右する重要な私は施策じゃないかなと、そういう具合に私も捉えております。常々私は、現庁舎、ここなんですけど、これの駐車スペースがやはりちょっと狭いんじゃないかなと、いつもそういう具合に思っております。それで、今回の東西の通路整備は、私はやっぱり両サイドの、線路を挟んだ両サイドの駐車スペースの確保をやっぱり意識した駅前再開発をすべきだと思いますけど、町長はこの辺はどういう具合にお考えでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 駐車スペースに関する御質問ということですね。交流の拠点としますの

で、都市部でないエリアは車社会でありますから、車が基本となって、鉄道駅まで来て乗り換えるということが基本になると思いますし、鉄道に乗り換えなくてもこのエリアを一括して開発と申しますか、拠点にしたいという考えでありますので、人が集まるエリアというふうな考え方でありますので、そうなってくると役場にいらっしゃる方、スーパーやホームセンターにいらっしゃる方、そういった方が車でいらっしゃるんだと思っています。

駐車スペースについても、それは容量が必要だと思います。一体化する場合に一つ頭に浮かぶのは、金持テラス側の駐車場、あちらは根雨駅表側というか役場側からすると比較的余裕があるように感じますので、一体化することによって単なる足し算よりは効率的な駐車場の確保というのもできるんだと思っています。

いずれにしても、車があふれてしまう、それはそれほど人が集まれば何よりなんですけれども、そういうことがないように、そういうのも考慮しながら考えないといけないというのは認識しております。以上です。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） 町長が常々おっしゃってる、今日もまたそういう言葉もあったんですけど、いわゆる明日が楽しみな町、それから元気になる楽しみな町をつくるという、そういうキャッチフレーズが町長ずっとおっしゃってるんですけど、これは全く私も同感でして、いわゆる日野町、そして根雨は、町民がいつも集える場所、これは先ほどからおっしゃってますけど、常にやっぱり買物とか病院とか役場とかホームセンターとか、とにかく根雨に出てきたら何とかなると、これを私は死守していただきたいんですよ。これは日野町だけじゃなしに、私はこんなこと言うのは失礼ですけども、両隣の町村も本当に死活問題なことに至ってきてると思いますんで、その辺の方も根雨まで来たら何とかなるんだというふうな町を私は目指していただきたい。そのための再開発かなと思うんですよ。その辺について、ちょっと町長のお考えを聞かしてください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 根雨に来たら何とかなるということは、そういった意識で私もおります。ワンストップサービスという言い方をしたりもするのかもしれませんが。こちらに来れば全てが一回で片づくというようなところですね。

あと、コンパクトシティとかコンパクトビレッジという考え方は世の中にあって、日南町の霞地区とか江府町は佐川をそういうふうにしようとしているのかの様子でありますけれども、日野町は幸運なことに特急が止まるJR駅があって、その真正面に役場があるという、こういった恵

まれた環境にあります。さらには、県の出張機関もありますし、県立高校もありますし、既にかなり隣の町に比べるとアドバンテージがあるところでもあります。ですので、さらにこの幸運をしっかりと利用して、私、この町をよくする、改善するためには、やはり長所と短所があって、長所はしっかりと生かさなければいけないなと思っています。

私いろいろ伯備線を活用でといろんなところでしゃべってますけれども、それは既にそういったアドバンテージがあるので、そもそも伯備線が通っているということ自体が、JR路線が廃止になるということで悩んでいる中国山地の中の自治体が多い中で非常に幸運なことでありますし、さらに、特急が止まり、有人ではなくなりましたがみどりの窓口があって、機械でありますけど、その正面に30秒で行ける役場があって、通路ができればその裏にスーパー、コンビニがあってホームセンター、さらに県立高校があると。ほんの少し歩けばきっちりと経営基盤のある日野病院があると。そういった恵まれた状況でありますので、これをしっかりと活用して、根雨に行けば何とかなるというのはきっちりと進めていきたいなと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） 根雨駅に関する最後の質問といたしますか、私も本当ににわか勉強なんですけれども、隣の日南町では中心市街地活性化事業に取り組まれて、生山駅が20年ぐらい前に再開発をなされております。これは私、ちょっとスマホで調べたんですけれども、内閣総理大臣の計画認定を要するようなことがちょっと書いてあったんですけれども、近隣のこうした事例もありますので、町長答弁にもありますようにまず確かな目的ですね、そして2番目は財源確保、確かな財源確保を明確にして事業を進めていただきたいと、そのように思います。ちょっと一言でいいですから、その辺をちょっと町長お願いします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 中心市街地活性化法の適用というのも、もちろん今勉強しているところでもあります。財源については、財源をしっかりと確保という御質問でありましたけれども、それはもちろん、今回は非常に大きな規模の開発になると思いますので、いろいろな手段があると思っています。私も会社勤めのときは日本国内いろいろなところに出張しましたがけれども、その都度、この駅はどうなのかなというのは観察をしていたりして、いろいろな施設と併合して通路が駅の反対側にあるというようなものも幾つか見てきていますので、そういった部分を研究しながら、しっかりと財源を確保して、あまり遠い将来じゃなくて、できるだけ近い将来に実現したいなというふうに思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） それでは、最後の山林活用について、ちょっと御質問します。

いつも農林業の質問が議員から出るんですけども、そのときの枕言葉というのは、必ず担い手不足と働く人の高齢化、それから生産コストといわゆる販売価格との逆ざや、お米なんかも、木材もそうなんですけど、そういうふうな補填をする話とか補助金の話とか、そういうことでいつも議論が終わるようなことがあるんですけども、私、今回のこの回答を見ましてびっくりしたのは、ちょっともう一回読みます。こういうことが書いてあったんです。日野町山林で森林整備を実施していただける林業事業体を増やし、生産性向上につなげたいと、こういう文章が入ってたんですよ。これ今までちょっとなかったような感じで、これは相当突っ込んだことが書いてあるなと思ったんです。

そこで質問なんですけど、この林業事業体を増やす政策、施策というのは、何か今お考えをお持ちなんですか。それをちょっと聞いてみたいと思うんですけど、町長いかがでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 事業体を増やすというところの考え方と認識ということだと思います。

私も林業というのは非常に気になっていて、町長に就任する準備をするに当たって、勉強させていただいています。確かに日野町の周りを見ると、黒く茂った杉林が、人工林ではありますけれどもあって、こりゃこりゃもったいないなというのを改めて認識したり、雪が降ると山に雪が積もると余計木が茂ってるなというのを感じるがありました。

そういったことをアドバイスしてくださる方とか、こちらから勉強していくと、若い方でも林業を志すという方が実際に日野町にもいらっしゃって、女性の方だというふうに認識していますけれどもいらっしゃって、そういう方がいるのであれば増やしていきたいなというふうに考えているところです。やはり、なぜ就業する方が現れたのかということを確認をして、それを進めていくということだと思ってます。

林業を就業するに当たっては、学校を卒業してすぐできるわけじゃないので、日南町で林業アカデミーがあって、そういった人を育てるといっても隣の町であるわけですから、そういったところに修業してもらおう。どうやって修業してもらおうかという資金的な援助とか、そういったところも考えなきゃいけないですけども、今私が考えているのは、実際に志す人がいるということが私分かったので、果たしてどういう気持ちでとかどういう心をお持ちでというのを確認しながら、教えてもらいながら、後継者を、事業者を増やしていきたいというのが考えであります。以上です。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） 今の町長の話に出てきました林業女子の話なんですけど、これは私の古くからと言うとおかしいんですけど友人でして、日野町とか、それから岡山県側の神郷町とか、あるいは南部町とか、そういうところで彼女は林業をやっております。機械がその向こう側にちょっと止めてあったりしますんで御存じかなと思います。

質問に移りますけれど、私は、林業事業体を増やす政策、これは何が一番いいかなと思うのは、これ私も経験上のことでお話しするんですけど、今やっておられます、課長もおられますけれども、随契で特定のところに事業をされてるわけですけど、これをやっぱり私はロットを少し小さくしてでもやっぱり入札で入っていただくような施策を取るのが一番早いと思います。先ほど午前中には何か農業にも土建会社さんを参入してほしいような話も出ましたが、私は小さいロットでこどうですかとしたら、手を挙げてやってみようかなという方が必ずおられますよ。そして、そういう方が増えてくると、だんだんとコストも下がってきます。そうすると、うちの山もやってくれんかなと、孫の小遣いにとか、これはじいさんが植えた木なんだよと、わしも目の黒いうちには一回だけはちょっと金握ってみたいなど、そういうことにつながるんですよ。私は、それが必要ではないのかなと思います。あんまりいろいろ言うとなし障りもありますんでこれぐらいなんですけれども、コストを下げるような施策も取り入れながら、少し研究してほしいと思うんです。

それで、課長来ておられますんで言いますが、県有林事業なんかのいわゆる林業なんですけど、そこら辺の入札制度をちょっと聞いたり勉強されたりしたらすぐ教えてくださいんで、ぜひ挑戦して取り組んでいただきたいと思います。

それでは、ちょっと質問のほうに変わりますが、林業の回答書の中に、ちょっとこれも久しぶりに出てきた意外な言葉だったんですけども、間伐や皆伐再造林事業といった森林整備の推進ということが書いてありますね。それで、ちょっと町長外れますけど、私ちょっと産業振興課長に聞きたいんですけど、日野町の町有林、町行造林で、今まで森林整備計画に基づいて皆伐作業をされたことがありますか。ちょっとお伺いしますよ。

○議長（中原 信男君） 課長、答弁できるか。

杉原産業振興課長。

○産業振興課長（杉原 昭二君） 皆伐事業につきましては、ちょっと過去の事例は今手元で把握しておりません。来年度皆伐事業につきましては、町有林、町行造林事業として皆伐事業を行う予定ではおりますけれども、ちょっと今、私、過去の事例については把握はしておりません。以上でございます。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） そうですよ。つい昨日、おとついでしたか、予算の聞き取り調査のときに、産業振興課から間伐という言葉が間違いで、これは皆伐でしたという具合に訂正されて、それはそれでいいんですけど、私、多分日野町では皆伐事業に入るというのは、これは初めてではないのかなと一瞬思ったものですからちょっとお聞きしたところです。

これは、町長、いいですか、近藤町長のときに町有林の主伐をするようになったという歴史ができますよ、これは。それはいいか悪いかはまた後の人が判断することなんですけれども、そういうふうに捉えていただいたらよろしいかと思います。後でまた本当にあったかどうか、そういう回答も出てくるといいますんで、それはそれで私はいいと思います。

それで、町長にちょっと失礼な質問なんですけど、ちょっと林業に関してお伺いします。先ほども言いましたように、補助対象事業でいうところの間伐、これは、町長、いいですか、何割ぐらい、何%切ったときにこれは国や県が認める間伐だなど、パーセントはわかりますか、ちょっとお聞きします。

○議長（中原 信男君） 分からんでしょう。産業振興課、課長分かるか、その数字的なところを。何%切ったら補助対象になる。

○議員（3番 坪倉 敏君） 結構です。私なぜそういう質問したかいうたら、次の質問に関わるんですけど、これはちょっと私も林業遠ざかってるんで変わってるかどうか分かりませんが、30%です。そして、ちょっと木が混んでるとか、それからここはもう少しできますよというのが最大35%だと思います。これがいわゆる国、県がいうところの間伐事業の補助対象の割合です。

そこで、さっきの話なんです。初めて皆伐するわけなんです。今までは町内の山はほとんど間伐で置いてました。いわゆる30パーから35%で作業が動いたんですよ。今度あの予算書に出てました……。

○議長（中原 信男君） どうぞ、まだいいですよ。

○議員（3番 坪倉 敏君） いいですか。滝山林の滝山には皆伐をするんですよ。これはいわゆる100%切るわけですよ。町長、いかが思いますか。どれぐらい効率が上がると思われませんか。適当でいいですから。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 貴重な残り時間で質問されてるので、きちっとお答えしなきゃいけないかなと思います。まずは、私に皆伐の初めての町長という名誉をいただけそうなので、過去の先

輩町長さんたちにお礼をしなきゃいけないかなというところでもありますけれども、そのところはしっかりと勉強しながら、意識としては森林資源をきっちりと活用するという意識でありますので、私も林業得意ではない、得意ではないというか勉強不足なので、その辺はしっかりと勉強しながら、議員にも教えていただきながら、しっかりと町のためになる部分をやっていきたいと思っております。

細かい数字は正直今から勉強しますので、皆伐の名誉ある町長になりますようにしっかりと勉強しながら、それが達成できるかどうかはまだ断定はできませんけれども、勉強して森林資源を生かしていきたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員。

○議員（3番 坪倉 敏君） 最後までやぼな質問に対して御丁寧にお答えいただきまして、本当にありがとうございます。

私も、林業というのは私の一生の仕事といたしますか、切っても切れない職業になってしまったんですけれども、これからも私もやっぱり日野町の林業に対して愛着があるし、頑張っていきたいと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。これで私の質問は終わります。

○議長（中原 信男君） 3番、坪倉敏議員の一般質問が終わりました。

○議長（中原 信男君） 次に、5番、梅林智子議員の一般質問を許します。

5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） 参政党の梅林です。どうぞよろしく願いいたします。

通告のとおり一般質問を申し上げたいと思います。質問事項は、少子化対策の具体的な方向はということでございます。

○議長（中原 信男君） 梅林さん、マイクがちょっと遠いみたいですので気をつけてください。

○議員（5番 梅林 智子君） はい。

子育て世代が日野町内で安心して子供を産んでもらうために、何からやれば良いとお考えでしょうか。例えば夫の収入だけでは子供2人を養えないから諦めます、こんなお声を聞いています。今まさに子育て世代の家庭に、もう一人、もう二人お考えいただきたいのです。子供自身が家族の愛をしっかりと受け取れるような子育て環境を整え、いわゆる愛着形成を確かなものにするのが人格形成の第一歩と考えます。

そこで質問です。現行の子ども手当とは別に、習字、書写ですね、ダンス、音楽、文化、スポ

ーツなどに特化した日野町版の子育て教育クーポンの発行をするお考えはありませんか。

2つ目の質問です。鳥取西部風力発電事業について。

この事業は様々な不安要因があり、国内では類を見ない、高さ196メートル、22基で、本当に途中でこういうふうに巨大化するなど、もろい岩盤の上に建設が進められようとしています。関連3町からの反対表明にもかかわらず、業者は今年に入って毎月の勉強会なるものを行い、5月と予定されていた準備書に向けて、その動きを加速させているように感じます。

この計画に対する町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 5番、梅林智子議員の御質問にお答えいたします。

初めに、子育て世代が子供2人目をもうけるため、また愛着形成を確かなものにするため、日野町子育て教育クーポンを発行してはどうかとの御質問にお答えいたします。

施政方針にて申し上げましたが、政策策定に当たっては思い込みを排し、単なる他の受け売り策でもなく、日野町の実情に沿った施策を講じますと述べました。この施策に沿って考えますけれども、御提案の日野町子育て教育クーポンは、いわゆる習い事を対象とした支援です。

2人目をちゅうちょする愛着形成できない原因に習い事があるのであれば有効な施策ですけれども、そのような因果関係は見いだせませんので、日野町子育て教育クーポンを発行する考えはありません。

次に、最後に風力発電事業に対する町長の考えについての御質問をいただきましたが、午前中に7番、松本利秋議員から同様の質問をいただき、お答えさせていただいたとおりでございます。

以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） 教育クーポンについては考えないと伺いました。それでは、若干違う角度から御質問をしたいと思います。

この教育クーポンなんですけれども、我が町の大事な子供で不登校の状況にある児童生徒さん、このことを私は考えました。全児童生徒の101人、そのうち30日以上欠席している方は9名、年間登校数が190日ぐらいとお聞きしておりますが、その半分ですね、100日以上欠席している方が5名で、その方たちがほとんど御自宅でお過ごしだということです。

この子供さんたちが、みんなが明日を楽しみにする気持ちを持って伸び伸びと日々を生活していただきたい、私はそれを強く願っています。好きなことを見つけるためにも、家庭以外の他人と触れ合う機会を得て、そして何かの小さなことでもいいんです、成功体験をするチャンスはあ

ることがいいんじゃないかと私も、町長さつきおっしゃいましたけども、本当に心からそう思います。

日野町にはフリースクールがありませんので、町としてそれを支えるということが今十分にできていないというのが現実です。じゃあほかの近隣の町に行きやあいというふうに思って探したこともありましたが、なかなか満員で受け入れていただくことができません。それが今の現状ではないかというふうに思います。

あるお子さんに、給食費が国から出してもらえるようになったよと、5,200円だってと言いましたら、そんな給食食べた記憶がもうあんまりない、何食べたかなって言いました。それぐらい学校から離れてしまうと、本当に心配というか、その人の生き方という面もあるわけですが、本当に学校になじめなかったというのは残念なことではないかと思いますが、もう諦めている場合にはありませんので、私は今、積極的にやっていくべきではないかというふうに思います。

実は私の娘も、いじめが原因で不登校になっていた時期がありました。もう30年も前の話ですから本当だと思うんですけども、もう昔だからと思うんですけども、やはり本人にとってはその影響は深く、本当に長く後を引いています。子供自体も本当に苦しむから、年間今500人もの自殺者がいるという現実もありますし、やっぱり親としても苦しむ子供をなかなか助けてあげられないふがいなさというのを感じてしまいます。

誰だってコミュニケーションが上手になって、本当に堂々といろんなところで話ができて、誰とも仲よくなる、そういう自分になりたいと思う。思うけど、なかなかそこがうまくいかない。じゃあ引き籠もったり、それから学校に行けないような状況になったお子さんにどのようにアプローチをしていくか。これはその御家庭にとっても本当に大きな問題です。

そのためにも、この町は私という不登校の子供をちゃんと見ていてくれるんだ、それを感じていただける何かのパイプが欲しいと思います。当然学校の先生たちとか友達とかあるかもしれない。だけど、それ以上に、町の新しい顔になられた町長さんの顔が思い浮かぶような、そういう施策を打っていただきたいなという、そういう希望がございまして実はこれを考えました。

私は長くDVの被害者支援のシェルターというのをやっておりましたけれども、本当にたった一人の出会いで子供たちごろっと変わるんです。そのチャンスになっていただきたいというふうに思います。もう一度お考えいただくわけにはならないでしょうか。

○議長（中原 信男君） 梅林議員、ちょっと整理しましょう。座っていただいて結構です。

今の質問の中で、クーポンという発行はどうだというのが基本の質問でございます。その中で

今の梅林議員の質問としては、町長に問うこととして、不登校の現状に鑑みて、そこを打開策としてということですか、このクーポンをやりませんかというところの質問ですか。それでいいですか。

○議員（5番 梅林 智子君） はい。

○議長（中原 信男君） 町長、御理解いただけましたか。

近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 不登校の子供たちへの対応という御質問ということですね。いただいている質問が夫の収入だけではという言葉でありましたので、そういったところと結びつかないというところで先ほどの回答になっております。

ですから、改めまして、101人中9名が不登校でありますので、これは確かに多いなという印象であります。その対処策については考えていかなければいけないですけども、お話を聞きながら、それから先ほどの小規模校の弊害というのも頭に描きながら御質問を伺ってましたけれども、一つは小規模校の弊害と言えるのかもしれないです。9年間同じ学級で過ごすわけですから、まちの学校だと毎年クラス替えがあつて、違う友達になるというもう一度のきっかけというのはありますので、きっかけ大事なんですけれども、そういうものがないというのも小規模校ではあるのかなというふうに、今お話を聞きながら、それと先ほどの答弁の内容を思い浮かべながらそういうふうに思いました。

そうだと、きっかけが重要だとは思いますが、これがクーポンかということ、そのようには今思えないので、いろいろと考えていかなければいけないんですが、日野学園にはスクールソーシャルワーカーもいて、いろいろ苦勞もなさっているようにも思います。ただ、そこは学校に来てくださればというまた前提つきでもあるので、学校に登校しない場合にどういうふうな手当が必要か、対策が必要かというのは今のところは思いつかないですけども、きっかけが必要だという部分は同感といたしますか、そういうふうなものだと思っています。

ちょっとそこは、質問の内容がちょっと変わってきましたのでよく整理ができていませんけれども、よく専門家、あるいは現場の教師、そういったところと相談しながら考えてみたいなと思っております。問題としては、1割近くが不登校というのはすぐに対処すべき課題だという認識は持っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） やっぱり不登校ということは、私にとってもやっぱり突きつけられるとつらい話なんです。本当はそれをストレートに言いたかったけれど、何となくみんなそれ

それ同じであればということでこういう質問の仕方になってしまったので、本当に私の力のなさだと思しますので、申し訳なく思います。

私が具体的に教育クーポンをどういうことに使うのかということ想定をして書写と、習字をすればいいというふうに出したんですが、習字というのが、やっぱり読んで書いて話す、そして字の意味を理解する、このようなことでとても有効であるというふうに研究者が申請しております。研究者というのは実は小学校の先生なんですけども、この時間が本当に少なくなったことでこういうことの勉強をじっくりとすることが人格形成にも有効だというふうな講演も聞きました。本当に私もとても考えなければいけないなというふうに思ったわけです。

そして、ダンスとか音楽もやはり時間がなかなか取りにくい現状があるので、小学校に行ってお子さんでもちょっと少なめになってるところがあります。そういうことを想定してみますと、本当に実際に出会うお子さんも、私は絵が大好きだ、それから料理が好きだ、これは文化というふうにくくりましたけれども、それからお魚が大好きだ、トンボが好きだ、いろんな子供がいますし、町内にいろんな大人もいますので、そういう様々な手仕事ができるとか、革細工ができるとか竹細工ができるとか神楽面打てるとか、そういうことですばらしいすてきな大人たちと出会うということが子供にとって何かのきっかけになるのではないかとというふうに考えました。

日野町もすごい人だらけです。その子供たちがクーポンを使って胸張って外に出て外の世界に羽ばたけるということをイメージして、こういうふうにクーポンということを思いついたんですけども、この説明を御理解いただけましたでしょうか。どうでしょう。

○議長（中原 信男君） 町長、理解できましたか。いいですか。

近藤町長。

○町長（近藤 宏君） いろいろと苦勞されて質問をつくられたというところは理解しましたし、なかなか、書面にしづらいというところはあるんだろうなとは思っています。繰り返しになりますけれども、何かきっかけが必要で、その手助けになる方策があればいいですか、そういう方策を見つけなければいけなくて、クーポンになるかどうかは分かりませんが、そういったところは専門家、現場、そういったところと保護者の方、保護者の方は苦勞されてる当事者になってしまうかもしれないですけど、そういったところの方々と相談しながら、現状を知りながら、三現主義でありますので私も、そういった現実をよく理解しながら対応したいと思っています。質問が難しかったというところは理解いたしました。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） 拙い説明を御理解いただいて、ありがとうございます。

それでは、今度風力発電のほうに参りたいと思います。

さっきの町長の答弁を聞かれて、町民の皆さんは本当に安心されたというふうに思います。だけど、これで問題解決とはならないわけですよ。電気事業法では、地元合意を必要としない仕組みになっていることが大きな不備だということを皆さん指摘してくださっています。3町の町長さんと、それから知事が、経産省の資源エネルギー庁に対して要望書を提出しました。こういうことがあったわけですが、その後の動きというのがちっとも伝わってこないんですが、何か御存じのことがあれば教えてください。町長、いかがでしょう。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） お答えします。

経産省のほうに要望に伺って、その後の動きというのは私も把握はしておりません。大きく動いていませんし、業者のほうは準備書を5月に出すんですかね、それが進んでいるというところでもありますし、先日も伯耆町のほうで勉強会があったんですかね、そういった動きをしているところしか理解しておりませんが、準備書ができるのか、それは一度、私は見ることを拒否するつもりはなくて、しっかりと、果たしてどう考えているのかなというのは確認をして、きっちりと、来ることを拒むというようなことはいたしませんし、彼ら事業者もある思いがあってやっているわけですから、そういった部分にはきっちりと対応しなければいけないと思っております。ですので、単純に反対という姿勢ではありません。きっちとした節度、マナーを持って業者とも対応するつもりであります。

あと、繰り返しになりますけれども、3町の連携について、日野町だけが我が道を行くというようなことはなくて、しっかりと連携をして進めていきたいと思っておりますし、県とも歩調を合わせてだと思っております。繰り返しになる部分が多いですけど、そういう考えです。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） ありがとうございました。

この動きですよ、やっぱりどこの町がこのように目に遭うといいますか、こういうことになっても、法律がこのような状況であれば本当にどこも苦労しなきゃいけない、心配しなきゃいけないということが続くわけですから、何とか町長さんたち3人と知事さんの思いが中央に届いて法改正がされるというのが本当に願いでございます。皆さんもその願いを後押ししようという町民の皆さん、それから町の皆さんもそういうことでまだ動いていこうというふうな状況にあります。

やはり県が県として県の権限である林地開発許可であるとか保安林の解除であるとか、そういうことを軽々にはやらないよ、じっくりと検討さしてもらおうよという表現をされておりますので、本当にその辺でも厳格に対処してもらおうということで、皆さんは少し安堵しておられます。

やっぱり私たち町民が心配するのは終わってからですね、風力発電が例えば終わってから、そのまま地下構造物をそのままにして放置されるのではないかということに対して大きな懸念があったんですけど、これも盛土条例という法をつくっていただいて、少しの安堵の担保といえますかね、お金をちゃんと納めてくださいよということで法がなされておりますので、本当にその辺も安心だと思います。

私、町として何ができるんだろうかというふうに考えたときに、先日の勉強会の中で新潟大学の先生がおっしゃいました。やっぱり戦後、大規模な造林が行われたことで、伐期を迎えた、または過ぎた木が山にたくさんある。土石流が起こったときにこの木が根ごとひっくり返ってしまっ、そして家とか、それから橋とか、本当に大事な大きな構造物をも壊すようなことがあるから、これが大変問題になっています、こういう講演をなさいました。風力発電が来るとということが絶対条件ではないけれど、本当にふだんからの防災、土砂災害を防止するためにも、この大きくなり過ぎてしまった木を計画的に危険箇所からお金にしていくということですね、切ってお金にしていくということを考えなければいけないんじゃないかな、3番議員さん、3番の先ほどの坪倉さんの答弁を聞きながら私そう思いまして、この防災ということにもプラスした山の仕事、これから日野町がすべき山の仕事としてこの観点も入れてもらえないかなというふうに思いますが、いかがお考えですか、町長に伺います。

○議長（中原 信男君） ちょっと今整理がつかんだけども、風力発電に関する事で町長の考えを聞きました。今、最後の木の伐採のことを町長に質問されたんですね。

○議員（5番 梅林 智子君） ええ、そうです。これは風力発電の先日の勉強会で来られた新潟大学の先生が、土石流が起こった場合に木が大変悪さをする時代になってきて、ただ砂とか泥とかそういうものだけではなくて、木が大きくなり過ぎたための余計な災害が起きてることが大変問題になってるというふうにおっしゃったわけです。

○議長（中原 信男君） そこは、梅林議員、風力発電と木の大きくなったことによる土石流なり災害なり地滑りなりというところの、この質問の趣旨が今通告とちょっと異なるような気がするんです。

○議員（5番 梅林 智子君） そうです。

○議長（中原 信男君） ちょっと角度を変えて質問していただければ。この風力発電に関する町

長の考えを基本に今、梅林議員質問されてますので、そこを基準に質問していただけないか。

○議員（5番 梅林 智子君） はい。もうちょっと詳しく申しますね。

○議長（中原 信男君） どうぞ。

○議員（5番 梅林 智子君） その風力発電の勉強会のときに、こういう質問ってどうか、御意見が出されました。これは日野町の人からの業者に対する質問でしたけれども、その方は、私の地区というのは、古くからいろんな土砂災害というのを経験しています。もし山のとっぺんのほうに風車が建ったらば、そうなる、家も壊され、それから橋も壊され、そしてその先に保育園がある。自分は、この保育園とか家のこと、そういうことを考えると、高齢ではあるので、自分が出ていってどうこうするなんていうことはできん。もう本当にどんだけ今まで心配したか分からんというところに住んでいるので、ぜひともこの風力発電をやめてほしい、こういうことが来ましたと業者がパソコンの画面を大きく映して出しまして、わざわざこの話をされました。出してこられました。

それで余計思ったんですが、全て予定地だけするわけにならんかもしれんけれども、その方の心配に応えるためには、やはりそういう観点もこれから持って、すぐすぐにしたほうがいいとかという思いはありませんよ、だけれども、万が一のときに考えれば、そのときのことを考えれば、うちの保育園の横の大きな水路っていいですか、そこに木がいっぱいたまったり、大きな石が詰まったりしたときのことをふっと思い出しました。大変具体的な心配ではないかなというふうに思ったので、このたびの勉強会の中で、津地、舟場という地名が随分出てまいりました。私は、やはり全部風力発電が建たないということは信用したいけれど……。

○議長（中原 信男君） 梅林議員、大体思いは分かりましたけども、質問としては、町内のそういう懸念を持っておられる方が実際におると、建設を仮にされたらそういう懸念を持っている方を直接自分は聞いてましたということの質問で……。

○議員（5番 梅林 智子君） 申し訳ないけれど……。

○議長（中原 信男君） 実際にそういう工事が認可が下りて風力発電が推進されて、そういうことが起きる可能性があるということを町長に対しての質問に代えるとするならば、そういうことを町長はどう思われますかというところでの質問したらどうでしょうか。それしかないと思いますよ。今の、そういう懸念があるということをお前はいろいろな機会を通じて知ってますよということですよ。それを町長に対して質問として、この西部風力発電のことについて町長の考えを聞きたいということですので、そういう事例を町長に対してどう思われますかという質問しかないと思うんですけど、いかがでしょうか。いいですか、それで。

○議員（5番 梅林 智子君） はい。

○議長（中原 信男君） もっとほかに質問……。

○議員（5番 梅林 智子君） いやいや、あまりに具体的なことだったので私もびっくりしたんですけれども、そういう意見が町民さんから出て業者のほうに届いていたということについてどういうふうにお考えかということ、じゃあ、お聞かせください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 伐採適期を迎えたものを放置して、それによる災害の可能性が高まっていることの不安に対する対処はどういうふうを考えるのかという御質問かと思えます。

それについては、先ほど森林の林業のところでもお話をしましたけれども、伐採適期を少し過ぎていて日野町の森林においては、災害防止という部分でも早いうちに、それを間伐、皆伐、造林というようなことにも進めていかなければいけないかなというふうにはつながる。そういう災害防止という部分を含めて進めていかなければいけないなと思ってます。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中原 信男君） ここで休憩をいたします。10分間休憩をいたします。再開は2時50分。休憩します。

午後2時38分休憩

午後2時50分再開

○議長（中原 信男君） それでは、再開をいたします。

続いて、8番、安達幸博議員の一般質問を許します。

8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） それでは、施政方針から読み解く近藤町政についてお尋ねをいたします。

近藤町政は、消滅可能性自治体から脱却させることを目指し、若年人口の減少を抑えつつ、高齢者支援や地域医療、子育て、教育、産業振興、交流拠点整備を通じて、「明日が楽しみな町、日野町」を実現することと推察いたします。これらのことは令和8年度のことだけでなく、任期4年間での目標であると思います。実現に向けての4つの重点施策を具体的にお聞きいたします。

1つ、子育て・教育について。

①高品質で魅力的な教育に国際バカロレアプログラムの導入を検討とありますが、現時点での進捗状況や課題は何でしょうか。②日野高校魅力化において、日野高校の在り方の課題は何でしょうか。

2番目、医療・福祉について。

施政方針で述べられていることは、日野病院議会で議論を深めることが重要と考えます。1つ、町民の健康年齢向上への具体的な取組をお尋ねいたします。

3番目、産業振興について。

①農業、林業の後継者不足を補うためのスマート農業・林業の導入計画について具体的に教えてください。②伐採適期でありながら放置された森林資源の活用方法を尋ねます。③商品力魅力アップ、創業支援事業の拡充に当たり、課題や具体的な内容を尋ねます。④町長は、新規事業をどのように進めていかれますか、お尋ねをいたします。

4番目、交流の拠点整備について。

①根雨駅周辺の整備計画について、具体的な内容やスケジュールを教えてください。

以上、町長にお尋ねいたします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 8番、安達幸博議員の御質問にお答えします。

初めに、高品質で魅力的な教育に国際バカロレアプログラムの導入検討するに当たり、現時点での進捗状況や課題についての御質問にお答えします。

取組については、これから認定プロセスについて調査を始める段階です。鳥取県内で導入している倉吉東高校や、小・中学校で導入している他県の事例を調査することから始めます。また、日野学園、保護者に対して認定に向けての意識醸成が必要です。県教育委員会にも理解、支援していただく必要があると考えております。

次に、日野高校魅力化において日野高校の在り方の課題は何かについての御質問にお答えします。

まずは、目指すべき姿がはっきりと見えていないことが課題の一つと考えております。進学校を目指すのか、特色ある技能、スキルを身につけさせるのか、特色ある部活動を行うのかなどです。総合学科による多様な教育とうたうと、つかみどころのない印象も持ちます。

また、ふるさと教育、地域教育の在り方にも課題があります。ふるさと教育、地域教育には異なる2つの側面があります。1つは、地域で育てることです。日野高生が地域に出かけて、地域の方々から教えてもらい、刺激を受けて成長することです。これは日野高生の成長に視点が向い

たものです。

もう一つは、地域愛、郷土愛を醸成することです。日野郡を好きになってもらい、日野郡に定着してもらうことを目指すものです。これは日野郡の人口流出防止に視点が向いています。日野高校の目指す地域教育は、日野高生を地域で育てる前者でなければならぬと思います。私は、先日の日野高校卒業式で、皆さんの故郷日野は、成長した皆さんが地域や日本、さらには世界で活躍されることを心から期待していると祝辞で述べました。日野郡への定着率などは教育目標には掲げず、日野高生の成長と活躍を願う教育であるべきです。そうすれば、おのずと郷土愛も生まれるものです。

以上が私の考える日野高校の在り方の課題です。

次に、町民の健康年齢向上への具体的取組についての御質問にお答えします。

健康診断受診率の向上を促す取組は進めたいと思います。

加えて私が取り組みたいのは、がん検診です。がんは、日本人の2人に1人が罹患します。しかしながら、早期発見、早期治療により完全寛解、完治に至る可能性が高まります。がん検診のメニューを多く準備するとともに、がん検診の意義、受診しないことによるリスクを町民に周知し、検診率向上と、がんによる死亡率低下を目指します。

次に、スマート農業・林業の導入計画についての御質問にお答えします。

スマート農業・林業の導入については、事業者ごとに導入計画を作成し、導入を図っていくものであるため町としての導入計画を作成することは考えておりませんが、農業につきましては、先ほど小河議員の御質問にお答えしたとおり、それぞれの事業者及び集落において導入を希望される場合があれば、積極的に支援していきたいと考えております。

次に、林業におけるスマート技術導入についてお答えいたします。

全国的に林業の後継者不足が問題となる中、本町においても林業の担い手不足が進行しており、今後、持続的な森林整備を進めていく上で大きな課題になると考えております。

こうした中、近年は、全国的にICT、情報通信技術ですけれども、ICTやデジタル技術を活用したスマート林業が注目されており、衛星測位システムを活用したGPS測量機器による森林調査や、高性能林業機械の導入、森林資源情報のデジタル管理などにより、作業の省力化や効率化、安全性の向上が期待されており、本町としてもこれらの技術は担い手不足の課題を補うとともに、林業をより魅力ある産業としていく上でも重要な取組であると認識しております。

スマート林業の導入については、令和元年度に日野町スマート林業推進事業費補助金の制度を制定し、事業者が作成した導入計画及び事業者からの要望を基に、高性能林業機械導入や路網設

計支援ソフトの導入、GPS測量機器の導入に関わる経費についての支援を実施しており、森林施業の高効率化を図る等、担い手不足の対策に努めております。

今後も、持続可能な森林整備の推進のため、林業事業者や県と協議を重ね、適切なスマート林業の推進に取り組んでまいります。

次に、伐採適期でありながら放置された森林資源の活用方法についての御質問にお答えします。

先ほども答弁しましたが、戦後造成された人工林の半数以上が伐採適期を迎えている中、これらの森林資源を適切に循環利用していくことは、林業の活性化のみならず、森林の多面的機能の維持の観点からも重要であると認識しております。

本町では、県や林業事業者と連携しながら間伐や皆伐再造林といった森林整備の推進に取り組んでおるところでございますが、一方で、林業担い手不足や、急峻な山が多く、森林施業に手間と時間を要するなど課題も多く、思うように森林整備が進まないという現状がございます。こうした現状を打開していくための対策として、これまでは県造林事業費補助金への上乗せ補助や間伐材等搬出に関わる経費に対する補助といった森林所有者の還元に係る補助支援に取り組んできたところですが、今後は、林業事業者向けの支援を増やすことも検討し、日野町の山で森林整備を実施していただける林業事業者を増やすことで、林業生産性向上につなげたいと考えております。

また、森林経営管理法に基づく森林経営管理制度を活用し、森林所有者に対し意向調査等を実施することにより、手つかずの森林の集約化の推進にも努めてまいります。さらに、急峻な地形に対応した森林整備を推進していくため、日野郡3町及び県の連携による日野郡連携会議の取組において、新たな県営林道金持秋縄線の開設事業を令和8年度より開始するなど、手つかずの森林資源を今後、伐採、搬出できるよう、林業専用道や森林作業道の整備を含め、路網密度の増強にも努めているところです。

今後も、関係機関と連携しながら、適切な森林整備と森林資源の循環活用を進めてまいりたいと考えております。

次に、商品力魅力アップ、創業支援事業の拡充に当たり、課題や具体的内容についての御質問にお答えします。

まず、商品力魅力アップ支援事業補助金は、町内事業者の収益向上、町の経済活性化推進を目的に事業者自らが行う商品の魅力アップや新たな商品づくりの際に、商品パッケージデザインやホームページ及び宣伝材料等へ支援、創業等支援事業補助金は、町の産業活性化を目的に、町内で創業、または町内事業者が異業種参入の際に必要な店舗の改装や備品購入等へ支援してい

るところです。

事前相談の際、補助要件の緩和、拡充について要望があり、本町としても町内外から新規に創業していただけるように制度設計を見直し、町の経済活性化と事業者の収益向上に向けてさらなる支援をしたいと考えております。

次に、新規事業をどのように進めるのかとの御質問にお答えします。

新規事業の種を見つけるためには、アンテナを張っておくことが必要で、国内外の事業、ビジネスに関心を持っておくことが大切であることは言うまでもありません。役場職員には、そのような意識、アンテナを持ってもらうように意識づけをしたいと考えております。

また、面白い発想を持たれた方が事業に結びつけるためには、マーケティング、市場調査ですけれども、それやベンチマーキング、競合との比較分析等が必要です。事業立ち上げ前に必要なステップであり、これらを支援する仕組みができないか、考えているところであります。

最後に、根雨駅周辺の整備計画について具体的な内容やスケジュールについての御質問ですが、先ほど3番、坪倉敏議員から同様の質問をいただき、お答えさせていただいたとおりでございます。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 8番。施政方針に対しまして、私の質問に的確に答えていただいたと思っております。就任1か月たたないうちに本当に精力的に勉強なさっているなっているのは、今日の午前中からの答弁でも察しております。

そこで、私もいろいろな項目で質問しておりますので、深くはできない、浅く、しかも、ここだけっていうようなところだけをピックアップして再質問をさせていただきたいと思うんですが、まず子育て・教育について、この高品質で魅力的な教育っていう部分で国際バカロレアプログラムということをお考えなさったと思うんですが、午前中からの分でどういった教育なのかというのは何となくは分かるんですが、この国際バカロレアプログラムとはいかなるもので、どういった組織というのか、そこを少しだけ詳しく説明をいただいといたほうが導入に対してもこちらでも分かりやすいのではないかなと思って、改めてこのプログラムの内容をお聞きいたします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 国際バカロレア教育というものについての御質問にお答えいたします。

国際バカロレアというのは、国際バカロレアという教育機関がありまして、そちらのプログラムを実施する学校として認定されて、そのプログラムを実施するというものであります。国際バカロレアの目的でございますけれども、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、よりよい、よ

り平和な世界を築くことに貢献する探求心、知識、思いやりに富んだ若者の育成ということが目的でございます。

この国際バカロレアの中では、学習者像、どういった学習をするか、そういう学習者像というのがございまして、それは、探究する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念を持つ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、それからバランスのとれた人、それから振り返りができる人、そういった学習者をイメージした教育プログラムでございます。

この認定を得るには、プロセスがもちろん必要でありまして、通常2年から3年かかると見込まれます。まずは関心校、関心を持っている学校ですというふうに手を挙げるところからスタートしまして、その関心がある学校というふうに認められますと、次は候補校、候補校というふうに認められますと、これは公的にバカロレアを目指す学校だというふうに公的に発表することができるステップであります。その後、いよいよ認定校というものでございます。

鳥取県内では、先ほどの答弁の中でもお話ししましたように、山陰地方では倉吉東高校が唯一認定を受けている学校ではありますけれども、国内でも増えてきています。ただし、町立の学校でこの国際バカロレアの認定を受けているのは、実は北海道に2校ほどあるんですけれども、非常にまれなものであります。細かく言いますと、市立でありますが高知県のほうに、大宮小学校だったかな、というような学校がありまして、そのバカロレア認定教育ということで、それを目的に教育移住するということが実際に発生しているようであります。そういったところが国際バカロレア認定プログラムであります。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） お聞きしましたところ、大変本当、高品質といいますか、すばらしい人間として育てていけるんだらうなというのは実感的に思いました。

そこで、私もこういったプログラムがあるというのは初めて知りました。なかなかなじみが、多分鳥取県下でも倉吉東しかないというようなことであれば大抵の人が御存じないのではないかなと思うんですが、町長は、この教育方針はどのようにお知りになった、あるいはこれをしようという動機とかいうのは、何か個人体験であったとか、そういうことはどういうことがあったんでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） このプログラムを個人的に初めて知ったのは、息子が高校受験するときにいろいろと調べていたときに、東京都には東京国際高校というのがありまして、珍しい名前だ

なと思って調べてみると、このバカロレア認定プログラムを実施しているというところでありまして、そこで頭の中に最初にインプットされました。そして深く興味を持ちましたのは、やはり私が前職で経験した中で探求というのが重要だなと思っていて、単純に知識の詰め込みではなくて、物事を深く洞察して追求して考える人間が必要だなという思いがあって、調べていきますと、教育指導要領にも最近「探究」という言葉が追加されているようでありましたし、さらにそこをいろいろ調べてみると、国内でも、最初は私立学校で導入が進んでいるし、高知県の先ほどの事例でいきますと、まさに公立学校で進んでるところがありましたので、興味が深まったということですね。

それと、やはり少人数の学校で、一発逆転じゃないですけども、日野学園が存在感を示して、存在感だけではなくて、実績として立派なといいますか、探求心を持ったいろいろな考え方を持った世界に意識を持った、そういう子供たちを育てるためには必要だという思いから導入を目指すことは、まずは妥当性、実現性から始めていきたいなと思って施政方針に入れたという経緯であります。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 一丁目一番地の施策でありますので、ぜひとも我々も応援をしていきたいと思っておりますので、あらゆるところで情報共有をしていただきたいと思っております。

先ほどちょっと答弁の中に学習指導要領のことがあったので、教育長にお尋ねしたいと思うんですが、今の事例でも各町立の学校でも導入しているってということなので、この指導要領ときちんと整合性を持たれるんだらうと思うんですが、そういう部分での今聞かれた範疇で問題なのか、時間数なのか、そういうものの何か支障があるとか、そういったものはあるんでしょうか。

○議長（中原 信男君） 安達教育長。

○教育長（安達 才智君） 本来1年間に何時間行うという時間数が決められていて、今のこのバカロレア教育をプログラムを行うためにどれぐらいの時間数が必要なのかということが分からないと、確かなところは言えないです。ただ、現在の日野学園で、はばたき科を行っております。そのはばたき科は、それ一つ一つ必要な学習で設定はしているんですが、それよりも、このバカロレアのプログラムに置き換えたほうがいいたらうというような判断ができるのであれば、はばたき科の中でそれを取り上げて学習をするということは可能だというふうに考えております。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） それでは、この高品質な教育についてはこれで終了いたします。

続いて、日野高校魅力化についてであります。日野高校の目指す姿が見えにくいということですが、この解決策としてどんなことを町長は思われますか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 日野高校の魅力化を進める上での解決策への御質問です。

先ほどお話ししたように、目指す姿が見えにくいというのは、推進協議会、学校関係者の中でも、何となくイメージはできているんだけど、こういうものというイメージの共有がまだしっかりできていないんだろうなという印象であります。先ほど答弁でもお話ししたように、進学なのか、部活なのか、もうちょっとスキルなのか、そういったところですね。そういったところでいろいろ悩みながら進んでいますねという印象であります。

一方で、入学者数は増えています。先日、16名だったかな、が卒業しましたけど、来年度は今度入替えに40名前後、40名を超える入学者になる見込みですけれども、そういった入学者が、入学志願者が増えている理由というものが一体どういうものなのかっていうのをしっかりと検証して、そういったところが目指すべき高校の姿になるんじゃないかなと考えています。

また、先日、金、土、日だったか、まさに日野高生のOBが、神奈川かな、神奈川出身のOBが神奈川の同級生を連れて日野郡に来たと。日野郡にまた貢献したいという思いを持って来たという事例もありますので、そういったところは、なぜそういうような発想になったのか、そのOBですね、そういった部分が日野高校が目指す姿としてヒントになるんだろうなと思っています。なかなか今でも苦労してますし、また来年志願者が減ってしまうかもしれませんけれども、よくなった部分についてはきっちりと検証して関係者で共有して、できるだけイメージを共有してベクトルを合わせるということが必要だと思っています。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 高校の問題については、かなり分析をされていると敬意を表したいと思います。私自身も、今日の町長の答弁を聞きまして、今、議会でもふるさと塾、縁側塾と魅力化という問題にやっぱり疑問符が結構あるんでありますけれども、今日の答弁で私なりにも何となくすっきり分かりやすくなったなというのを感じ、もう時間ないので、それはどういうことかというのはちょっとまた次の機会にしますが、何となく町長の答弁で分かりやすくなったんじゃないかなというふうに私自身は感じておりますので、いろんなところでそれをまた申し上げたいと思います。

続きまして、医療・福祉について伺いたいと思うんですが、ここで私が申し上げたいのは、が

ん検診についてかなりする必要があるっていうことをおっしゃっておいりました。そういうのを思いますと、どういうタイミングで、今でもがん検診の啓発はどんどんやっておるんですが、なかなか受診率も上がらないということです。

それをどういうふうにやっていくかっていうのは今後課題であろうと思うんですが、ここで1つ提案なのは、誰もいつかは受診をしてほしいと思うんですが、1つの区切りの年齢で、人間ドックを受けるに当たって町が無償でしますので、その年齢のときにはみんな受けてくださいねっていう、そういった誘導の仕方っていうのも一つの案ではないかなと私は思っておるんですが、町長はそういった方策というのか、施策をどう思われますか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） がん検診、健康診断も含めて受診率をどうやって増やしていくか、興味を持っていただくかということが結局のところ検診率を上げるということになると思っております。議員がおっしゃるように、ある年齢で、60でも65歳でも、もうちょっと若いほうがいいのかもかもしれません、55歳でも、そういったタイミングで一斉に案内をして、財源とかそういう話はあるんですが、町が負担をして検診率を上げる。検診率を上げることが目的ではなくて、それによる健康年齢を引き上げる、死亡を防止するということが重要だと思っております。こういったことを考えるのは、日野町は極端な高齢化が進んでおります。55%近い方が65歳以上だと。それは数値の上ではそうなんですけれども、重要なのは、そういった数値ではなくて、実際に町民が健康で働いていける、楽しく人生が過ごせるということだと思っておりますので、一足飛びに高齢化率を下げることは不可能でありますけれども、実質的に町民の方が健康であれば実質的に高齢化社会ではないので、高齢化社会は変わらないですけど、高齢化社会が緩和されるので、そういった意味で検診から健康年齢を上げていきたいなと思っております。

それから、年齢のある基準で案内をするというのもありますし、あと、今、がん検診、がんはいろいろながんがありまして、厚生労働省が推薦しているがん検診はありますが、それが十分かというところ、そうではないと私は考えていて、あれは検診をすることによって発見できる割合がある程度効果があるものというふうな分類をされていますので、その辺を効率で線を引いていいのかと、効率化ですね、そういったところも疑問を感じていますので、メニューを増やすと先ほどお話をしたのは、厚労省が推薦しているメニュー以外にも日野町独自でというふうを考えています。

さらに検診率を上げるためには周知が必要でありまして、検診を受けることによってどうなる、検診を受けなかったらこんなリスクがあるんだということをしっかりと周知して、がん検診に関

する勉強ってということが非常に大事だと思っています。自分には関わりがないというふうに見える方が大半だと思いますけれども、そういうことによってどれだけのリスクがあるんだよということを周知するというので、意識がある方は受診していただけるのかなというふうなやり方があるように思っています。そういうふうに進めたいというふうに思っています。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） この分野においても、切実なる日野町民の健康を守らにゃいけんというのが伝わってまいります。先ほども出ましたが、種類を増やしたいということではありますが、我々も、今、人間ドックでは肺と胃と大腸、それぐらいでしょうかね、でも、多いのは肝臓がんであるとか、それからよく手後れになると言われるのが膵臓がん、そういった部分はメニューになかなか入ってないんですね。

これらを入れたいっていう意味合いに受け止めましたが、なかなか、じゃあ、そのメニューを日野病院でっていうときに、日野病院、いわゆる医大にはPETとって、MRIみたいに一遍で少しの5ミリぐらいのがん細胞でも分かるというPETというものがあるんです。そういう部分で日野病院ではどうですかってって私、院長先生に聞いたら、PETはないけど、MRIでそれに近い結果を出すことはできるよっていうようなことも伺ったことがあるので、そういうものを生かしながら、日野病院でもある程度のいろんなところのがん細胞が分かる仕組みっていうのをやっぱり同時につくってもらったり、日野病院に協力してもらって、経営支援にもなりますので、ぜひそこは再度また詰めて早い時期にそういったことをやっていただきたいと思います。

医療・福祉についてはこれで終わります。

次に、産業振興について移ります。

産業振興については、スマート農業については、小河議員の質問にもありましたので、ちょっとアプリの栽培管理システムの具体的なものとか、そういう導入に当たっての補助であるとか、そういうものがあるかどうかお聞きしたいなと思います。

○議長（中原 信男君） これは担当課で答えられますか。分かるかな。杉原課長、このアプリに対する補助制度というものが今現在あるかないか、質問に答えてください。

杉原産業振興課長。

○産業振興課長（杉原 昭二君） アプリについてでございますが、こちらはスマホ等で農業のデータですとか営農管理、作業の記録、生育記録とか、そういったものを管理していくものでございます。こちらのほうは、費用としましては、物によっては無料で導入できるものもございまして、基本的には安価で購入できるものということでございます。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 今スマホを持っておられる率というのがもうだんだん高くなってきておりますので、導入に対してもそんなに費用がないということであればどんどんそれは啓発をしてされたらいいと思うんですが、今、日野町ではどれぐらいの方が、その日誌を利用するか、いろいろ利用でもあろうかと思うんですが、作付に対してなのかとか、そのアプリをどのように活用していらっしゃるのが人数的にはどれぐらいあるんでしょうか。これも担当課でいいです。

○議長（中原 信男君） 杉原産業振興課長。

○産業振興課長（杉原 昭二君） 導入されている方の実績ですけれども、私の聞いている範囲ですけれども、それは会社ですね、農業法人の1社というふうに聞いております。社内で、いろんな情報ですね、作業の記録ですとか進捗っていうんでしょうか、作業、生育状況とか、そういったものを社内で共有するものの道具として使っておられるということでございます。そのほかについてはこちらはお聞きはしておりません。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 今後、1社なら1社の実績とかそういうものをお聞きになって、ほんで、これはいいことだということであれば、課を挙げてやっぱり進めて、他の担い手さんに勧めていくっていうことは必要じゃないかなと、併せて補助事業をつくったり、そういうことも必要じゃないかなと私は思っています。時間もないので町長まで振りませんので、また検討してください。

次に、林業についてに移ります。

林業についても、本当に答弁を聞いて、私も坪倉議員さんと同じく林業体を増やすというところに関心を持ちます。今までは、作業道を造るとか、そういったことでありましたけど、実態的には町内では1社しかないんで、どんなにここを切ってっていうところがあったとしても、なかなか1事業体ではさばき切れないというようなこともあります。そういう意味でも、やっぱり事業体を増やしてほしいなと思ったのであります。そこを詳しく知っていこうと思ったきっかけは、そういった個人さんがいらっしゃるということがきっかけであるということでありました。そういうところにも敏感に支援をしていくんだという、私は近藤町長のその姿勢は大いに評価したいと思っております。

そこで、ちょっとだけ、答えを坪倉議員も求められなかったんですが、小ロットでの入札とかそういうこともおっしゃったんで、そこの辺の考えだけを聞かせてください。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 坪倉議員から小ロットでコストを下げるという示唆をいただきました。

そのことについては、よく研究して考えてみたいと思っております。事業体が増えること、競争入札、そうすることによって価格を下げるというのにはあり得るのかなと考えてますけれども、きちりと実際に調査してみても確認した上で進めたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 全て前向きな答弁だろうと私は理解しましたので、また調査の上、できる限りそのように沿って支援をお願いしたいと思います。

次に、伐採適齢期でありながらって部分のちょっと聞いてみたいことがあるんですが、伐採適齢期を過ぎたってことは、すなわち大径木であるんです。大径木を伐採をするって技術はなかなか難しいそうなんです。これは、やっぱり今までの伐採とは違う訓練とかが必要だということを私は森林組合の方から聞いたことがあるんですが、やっぱりここの習得の支援とか、あるいはそれに特化した事業体とか、そういうものが私は必要じゃないかなと感じておるんですが、町長は感じはどうでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） なかなかその辺の技術については、私もこれから勉強しなければいけないですけども、そういった難しい技術であれば、技術を習得しがいはあると思えますし、それが一旦そういった事業者が現れれば、また展開もできる機会でもありますので、その辺は可能性とか実態についてはよく調べてみたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 大径木の、これ課題でありますので、しっかりと事業体とも議論を重ねてください。

次に、商品力魅力アップについてお尋ねをしますが、ここで申し上げたいのは、創業支援補助金の見直しをするという、課題があるというようなことだったので、どういった課題があるかと、それから私は創業支援っていう創業者だけでなく、やっぱり今、事業承継がかなり問題になってます。ここの支援も大事じゃないかなと思っておりますので、併せて2つ御答弁願えますでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 創業支援に関する課題の部分と事業承継の御質問にお答えいたします。

創業支援については、周囲の自治体でも似たようなところがありますけれども、少しずつ金額

が違ったり、条件が違ったりしています。それを参考にしながら考えていくわけでありましてけれども、この日野町の中でも手を挙げて創業する事業者はいて、そういった方のお話を聞きますと、企業を登記してからでは受け付けることが困難であったりとか、そういった問題、あと、金銭的な面ですね、そういったところで役場のほうにもいろいろと、意見といいますか、クレームとは違った意見だと思っておりますけれども、そういった部分を聞いていますので、条件の緩和ですとか金額のアップについて考えていきたいと思っております。

事業承継のほうは、確かに今問題になっています。後継者がいないというのは、農林業だけじゃなくてこういったビジネスの世界もありますので、その辺は、議員のおっしゃるところをもう一度といいますか、確かにそうだなと今感じていますので、よく在り方、支援の仕方を考えてみたいと思います。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） これも前向きな答弁で、本当によろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、最後の項目、交流拠点について質問をいたします。

これも、ほとんどのところを坪倉議員さんに答えられましたので、私は、さらっとだけしたいと思うんですが、大変私は喜んでおります。といいますのは、さきに申し上げましたが、議会地方創生戦略特別委員会というものをつくって、我々はその中の1つの項目に根雨周辺の再開発を取り上げております。しかしながら、大きな事業でありますので、議会で提案をただけでは、なかなか執行部が、うん、そうだねっていうようにはならないだろうなという思いを持ちながら、しっかりとレクチャーしてプッシュしないといけないなと思ったところの矢先であります。そんな中で、新町長は真っ先に自分の施政方針にこれをやりますと言われたのでありますので、大変議会としても、これは本当に両輪としてやっていかなければならないというのを私は強く思った次第であります。

そういう意味でいうと、どんどん進めてほしいと思うんですが、坪倉議員のときにもちょっと出ましたが、財源の確保の問題で、中心市街地活性化を使ったらどうかっていうこともありました。私は、今の商業ゾーン、いわゆる国道までのこちらと庁舎側と、今でも商業ゾーンの的なものがあるんで、その範囲だったら中心市街地でもいいかなと思ってましたが、ところが、どっこい町長の発言は、舟場も入れるんだ、野田も入れるんだということになれば、もう少し商業ゾーンは別な角度も必要だなというふうに思いましたので、別なメニューも要るんじゃないかなと。これは地方創生しごと戦略というほうの中でもいいのかなというふうにちょっと思いました。ここらもしっかりと担当課と、これから何をすることが問題でありますので、ぜひそれは議会、ある

いは住民の方、町民の方と色々な意見を交わしながらしてほしいなと思っております。

しかし、スケジュール感が大事ですと申し上げておりますが、そのスケジュール感については、町長の4年の作業の年でもさわりぐらいには入れるというような速度が私は必要じゃないかなと思っておりますが、その件をお聞きしたいなと思います。

○議長（中原 信男君） 最後の質問ですので、安達議員、財源の確保のことと、それと、今のスケジュールのことの2件の質問でいいですね。

○議員（8番 安達 幸博君） はい、いいです。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） なかなか大きな事業でありますので、財源の確保というところがこれから苦勞するというか、工夫が必要なところであります。舟場地区、野田地区を入れたというのも、まちづくりという方向で財源が得られないかなという、これも財源を確保する一つの、戦略というところまでいかないですけども、そういったところから出てきたところありますので、まずはあそこのエリアをワンストップで、あそこじゃないですね、ここのエリアが活用できるようにいろいろと戦略を練りながら考えていきたいと思っています。

それから、任期4年間でということですが、それは施政方針で述べているわけですから、当然4年間で出すべきことと、何せ完了ではなくて足を突っ込めばという意識ではおりますので、そこはそういうところあります。以上です。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員。

○議員（8番 安達 幸博君） 明日が楽しみな町になるだろうと私自身もわくわくしております。よろしく願います。ありがとうございました。

○議長（中原 信男君） 8番、安達幸博議員の一般質問が終わりました。

○議長（中原 信男君） 続いて、1番、小林良泰議員の一般質問を許します。

1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） それでは、最後の一般質問をさせていただきます。通告の順番の関係で多少質問が重なっているところもあるかと思いますが、その点はちょっと御容赦いただければなというふうに思います。

私も町長の施政方針とこれからの町政について質問いたします。

埜田町長の任期満了に伴い、結果的には無投票選挙という形になりましたが、新たに近藤町長が就任されました。初日の施政方針でも説明がありましたが、今回、消滅可能性自治体からの脱

却というものをテーマに掲げておられます。

そこで、少し内容に踏み込んで、施策に当たっての町長の取組と考え方について伺いたいと思います。

具体的に2点の質問をしたいと思います。1つ目が、消滅可能性自治体からの脱却というところにつきまして、1つ目が、若年人口の減少率低下を目指す施策として、流出を防ぎ、流入を促すと述べられましたが、町長の具体的施策の考えを伺います。

2つ目に、高齢者向け施策がおろそかにならないように配慮するとありますが、高齢者も長く安心して暮らせるための取組に対する考え方について伺います。

大枠の2点目として、重点施策1の子育て・教育についてお尋ねします。

1つ目が、義務教育学校日野学園において、少人数学級の弊害と、それらを克服する高品質な教育について詳細を伺います。

2つ目が、関係する保護者や職員等との協議や取組についての対応を伺います。

以上、答弁をよろしくお願いします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 1番、小林良泰議員の御質問にお答えいたします。

初めに、若者人口の減少率低下を目指す施策として、流出を防ぎ、流入を促す具体的施策への御質問にお答えします。

施政方針でも述べました子育て・教育、それから医療・福祉、産業振興、交流の拠点整備を進めること、この4つを進めることというふうに申し上げましたけれども、まさにそのとおりであります。特に子育て・教育の中の義務教育学校としての日野学園に関する施策が重要だと考えております。

次に、高齢者も長く安心して暮らせるための取組に対する考え方についての御質問にお答えします。

日野町では、高齢者が多いこともあり、様々な高齢者施策を従来より実施しております。現在、町が主体となり実施しているものでは、移動販売事業、地域支え合い推進員による見守り、介護予防教室などがあります。また、地域や各団体が主体となって実施しており、町が支援している取組では、各集落の百歳体操、わすれんぼカフェがあります。これらについては、住民の皆さんに定着しているものでありますので、継続できるよう進めていきたいと思っております。

また、各集落で見守りや防災など、高齢者の安心・安全を守る取組をしておられますので、自治会活動への支援も強化してまいります。各集落を支援する集落・暮らしのサポーターの配置、

過疎や高齢化が進む集落が広域で連携する役割を補完する小さな拠点の活動を加速いたします。

さらに、ICTの活用です。近年、光ケーブルや携帯電話網の整備が進んでいますが、その恩恵を高齢者の方々が十分に享受できていないように感じております。従来よりスマートフォン購入助成やスマホ教室の開催などを実施しておりますが、高齢者は関心を持たれる方が多くないような印象です。高齢者にも利用してもらえるような仕組みがつかれないか、研究してみたいと思っております。

次に、義務教育学校日野学園における少人数学級の弊害と、それらを克服する高品質な教育の御質問につきましては、先ほど3番、坪倉敏議員から同様の質問をいただき、お答えさせていただいたとおりでございます。

最後に、関係する保護者や職員等との協議や取組についての御質問にお答えいたします。

対応が必要になる日野学園の教職員、保護者に対しましては、必要に応じて協議し、取り組み方の理解と支援をいただく必要があると考えております。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） それでは、重ねて質問させていただきます。大体同じような内容だったと思うので、比較的答えも出たようなところもあるので、ちょっとかいつまんで質問ができればと思います。

まず1つ目の消滅可能性自治体からの脱却というところで、先ほど町長は主に4項目について考えを述べられまして、その中で特に子育て・教育を重点的に考えておられるということでありました。日野学園の教育については後半の質問で幾つかあるので後でさせてもらおうとしまして、子育ての部分やそのほかの部分で質問をしたいと思います。

現状で医療や福祉の面では比較的充実してきたかと思いますが、まだ子育ての面では足りない部分が多くあるように感じております。まずは町内に住む若年人口を増やしていくことを目指していきながら、段階的な取組というものは必要だと思います。

そこで、まず1つ目の質問なんですけども、子育てに関する具体的な施策はこれからになってくるとと思いますが、その取組に当たりまして、今後どのように執行部と協議、検討をなされていくかというところをお尋ねします。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 子育てについて執行部とどのような協議かという御質問であります。執行部というのは私のスタッフでありますので、協議するというのはあまり適切ではなくて、執行部はイコール私の手足でありますから、協議するというものではなくて、一緒にやっていくん

だろうなと思っています。その辺は、私の施政方針に沿って、まさに執行部、執行部は私自身ですから、やっていきたいと思っています。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） そうですね、ここは執行部じゃなく、課長、担当課とかのほうがよかったかと思いますが、すみません。

施政方針の中にもあったんですけども、今後、問題、課題を見つけて取組を進めるときに、今の思い込みを廃して日野町の実情に合った施策を講じるというふうに述べられてましたが、今、近藤町長が掲げておられる、どういう問題があるかと捉えられていて、今後の施策に生かしていきたいかというところのまず考えを伺いたいと思います。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 消滅可能性自治体からの脱却、若年人口の流出防止と、そういった部分への考え方、対策であります。これは先ほどからお話をしていたり、施政方針の中でも述べさせていただいてますけれども、流出する大きな原因は、子育て世代の教育に対する不安、そこから小規模がより小規模になって負のサイクルが回っているということだと思っています。いろいろと流出する原因はありますけれども、日野町の場合は、昼間人口が多いという過疎地でありながら奇妙な現象が起きている地域であります。そのところから考えると、職場は日野町であるけれども、子育ては町外という現象でありますので、そういったところが負のサイクルになるわけですけれども、子育て・教育を一丁目一番地としているのは、そういった分析といいますか、そういった考え方からであります。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） 先ほど答弁にありました、確かに職場が日野町や日野郡にあっても、日野町に住まずに例えば米子とか町外に住む世帯が非常に多くいますので、ふだん土日だったりとかになかなかそういう若年人口が特に少なく感じるなというのはすごくあると思います。

そこで、今、実際住んでいる現役世代にとっても、仕事や生活の環境が変われば、よそへ転出する可能性も出てきますし、そのときに一つでも踏みとどまるきっかけとなるような何か施策があれば、少しよいきっかけになってくるんじゃないかと思います。先ほど施政方針の中に若者女性の人口割合というものが触れられていましたけれども、転出をしなくても暮らしやすかったりとか、あるいは他市町からもっと移住して暮らしたいなと思えるような施策を備えたほうが、より定住と人口減少に歯止めをかける早道になるんじゃないかと思いますが、その辺りの少し認識を伺います。

○議長（中原 信男君） 踏みとどまる政策ですか。

○議員（1番 小林 良泰君） はい。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 流出を踏みとどまる政策をしたほうがよいということではありますが、それはおっしゃるとおりだと思っております。踏みとどまるための政策とは何かというところで、子育て・教育だと思っております。まさに、あと加えますと、地域医療というのは重大でありまして、地域医療が崩壊するとこれは流出が加速されてしまいますので、そういったところは重要だと思いますし、4つ掲げてますけれども、産業振興、職場がなくなるっていうのも問題でありますし、それからやはり関係人口、ワーケーション、そういったものに視点を持っていくと交流の拠点というのが上がりまして、そういったところが4つの施策ということになります。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） こちらは、恐らく問題として優先順位をつけないと、多分一つ一つ対策をしないといけないと思いますので、その点は今後取り組んでいただきたいと思います。

先ほど梅林議員の質問の中にも少しありましたけども、正社員で働いてもなかなか手取りが増えなかったりとか、今やっぱり物価高もありますので、夫婦が暮らすための生活費だったりとか、あるいは払う税金だったりとか非常に比重が大きくなってますので、仮に子供が1人いたとしても、そういった家計の負担というのはさらに増えていくような現状であると思います。

今の現役世代が、もちろん家族で来てもらうのが一番早いかと思いますけども、今いる世帯がもう一人、あと一人子供を産んで育てたいと思うような取組としまして、先ほど教育クーポンなどはちょっと考えはないという話ではありましたが、国内外でもいろんな優良事例はありますので、子育てに例えば手元にお金が残って少し回せるような、減税というのはちょっと難しいですけど、そういう生活面で何か実質的な減税が取れないかというような施策に取り組んでいただくのはどうかなというふうに考えますが、町長の考えを聞きたいと思います。減税というか、何か負担が少し軽減されるというか、そういうところですか。

○議長（中原 信男君） それは、若者世代を残すための施策として、そういう子育て世代に対する減税ということ。

○議員（1番 小林 良泰君） そんな感じです。

○議長（中原 信男君） ということですか。

○議員（1番 小林 良泰君） はい。

○議長（中原 信男君） 若者人口の減少率の低下を目指すというところで、町長、理解できましたか。今の議員の、若者世代のこの流出を防ぐ観点から減税とかを考えてはどうかと。

近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 例えば減税はという御質問でありますけれども、税制は町政の範囲を超えていますので、そちらに対する対策は見当たりませんというか、ありません。

1つ、子育て世代にということで少しお話をすると、私は、きっちりと現実を分析して本当に効果がある対策を取らなきゃいけないなというふうに考えております。お父さん一人の収入では賄い切れないよというところが梅林議員の背景説明の中でありましたけれども、そのときに考えていましたのは、もし、そのお父さん、夫の方では賄い切れないという部分というのは、じゃあ、妻のほうが、奥さんのほうが働きづらいついていうこともあるのかなと。そういうふうな結果が分析というか、そういうのが実情であるのであれば、男女共同参画というようところが対策になるんだろうなというふうに頭の中で考えていたところですよ。

ですから、流出すること、子育てしづらいということはどういったことなのかということもきっちりと理解しないと、対策は取れないということでもあります。繰り返しになりますけど、お父さんだけでは駄目だよっていうことであれば、じゃあ、お母さんが頑張れるよということ、あと、子育てがあって仕事に出にくいっていうのであれば、そういった部分の支援だと思いますし、きっちりとそういったところを考えなければ日野町の実情に合った施策は取れないですよというのが常々申し上げていることでもあります。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） 少し理由は分かりました。ただ、ちょっと減税だと確かに、これはあくまで国の施策なので、町独自でやるっていうのは難しいと思いますが、実際、あるような事例とすれば、今思いつくものであれば、例えば何か家賃や光熱水費に関わるものですか、あるいは先ほど働き方というところもあったので、もう少しパートタイムのできるような場を増やしていくというのは必要じゃないかというふうに思いますので、その点も今後取組を進めていただければというふうに考えます。

次に、2つ目の高齢者のところなんですけども、今お話にありましたように、日野町の高齢化率はほぼ54%ぐらいが高齢者に当たりますので、どうしても現役世代と比べると偏りがあるというのは致し方ないのかなというふうには思いますが、今後、人口を増やして消滅可能性自治体からの脱却というのを目指す上では、若者の偏った施策ということじゃないですけども、今後もう少しめり張りのついた予算を配分しないといけないとは思っていますので、その点で、町長の、今

後、予算のことも含めてではありますが、例えば基金の活用だとか予算の振り分けで何かどういふふうに進めていきたいかというようなのはありますでしょうか。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 高齢者向けの施策と、それから若年人口の維持、そういった部分でのバランスということをおっしゃっているのかなと思います。

そここのところは、当然バランスが取れた施策が必要でありまして、高齢者向け施策がおろそかにならないようにと申し上げたのは、そういったバランスが重要でありますということです。人口比率でいうと、若年人口というのは、日野町の場合はほんの僅かではありますが、じゃあ、人口の比率で予算を分配するといいいのかというのは、それはそれで問題でありまして、人口の多い高齢者向けに予算を振り向けて、人口がほんの僅かの何百人しかいない、何百人もいるのかな、若年人口には、その人口の比率に見合った予算というわけには将来を見据えた場合にそれはいかないので、きっちりと消滅可能性自治体から脱却する、そして高齢者の不安も解消すると、そういった施策を考えながらバランスの取れた予算配分になるんだと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） では、今、施策についても、費用と効果を見ながら適切な支援は必要だと思いますので、我々も決算審査や予算審査のところで協議をしていきたいというふうに思います。

答弁の中にありました、今、移動販売ですとか地域支援員の見守りがあるとありますけども、今後考えられそうな問題とすれば、例えば美容室で散髪するようなことも多分難しくなってくるようなことも考えられますし、高齢者が多いので、ここ数年の間で後期高齢者の免許返納される方っていうのも増えてくると思いますが、その点は今どういうふうに認識をされていて、今後の取組として何か考えを持たれてるかというところを伺います。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 買物困難な高齢者が増えるとか、買物に限らず理容室に行くのも困難、それから免許返納というのは従来から問題でありまして、そこが移動販売であるとか見守りとか、あと、出かけるのが難しいということであれば、地域の支援員とか、そういったところが対策として打っていますので、それを継続していきますし、あと、質問の中には入っていませんでしたが、対策としては、ICTを使った町外の家族との会話とか、そういったものも施策の中では入れていますので、そういう取組をしたいと思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） ぜひ暮らしに不便が出ないように取組を考えていただければというふうに思います。

次に、2点目の義務教育学校について質問いたします。

先ほども国際バカロレアプログラムの説明などもありましたけども、答弁の文章を読む限り、現状だと少人数で多様性に触れる機会が少なくて困難というふうにありますけども、今後、高校に進学したりとか、あるいは社会人で働き出してからも本人の考えた以上に様々な人に出会う機会というのは増えてきますので、前の議員の答弁でも、その多様性に、あるいは自分の違う考えにたくさん触れるというようなお話がありましたけども、答弁的には、刺激を受けてお互いに何か高めるライバルみたいな、そういった存在を少し町長は指しておられるかなと思いましたが、ここでの多様性というところで、町長の解釈というか、どういうふうに、多様性って広いと思いますんで、もう少し説明をしてもらえたらなというふうに思います。

○議長（中原 信男君） 多様性の解釈を説明、先ほどの国際バカロレアプログラムの中で町長、安達議員のときに相当言いましたよね。この国際バカロレアの具体的なものはこうだということの説明されて、今の質問は、整理しましょう、町長に質問として問うのは、多様性という言葉の中で具体的にどういうことを思っておられるのかということですか。

○議員（1番 小林 良泰君） はい、そうです。

○議長（中原 信男君） 町長、そういうことらしいですが。

近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 多様性という部分のどういったところを課題と認識しているのかなという御質問というふうに捉えてお答えしますと、少し具体的なお話をしたほうがいいのかと思いますが、少人数の学校でありまして、1学年が10人程度、そういったところでありまして、自分以外に9人の個性しか出会わないわけですが、1学級40人ぐらいの一般的な学校へ行くと、自分以外に39の個性があるわけでありまして、多くの場合は、年度が替わればクラス替えもあるので、またさらに違う個性と出会うわけです。

そういった少人数学級だと、個性と出会う、多様性と出会うっていうのが機会が少ないだろうなと思いますし、それによる弊害、幾つかあると思いますが、先ほど梅林議員の中でもお話ししましたけれども、限られた人間、個性の中で生活する、それが9年続くと、やはり登校拒否とか心身的な問題が起きたときに、キャンセルできない、キャンセルするきっかけがなかなかないという部分は弊害かなと思っています。小さい社会、小さいグループで仲よく過ごせばいいですけども、そうとは限らないんで、そういったところが小さな学校では気をつけなければいけな

いのかなというふうに今改めて思ってます。多様性、多様性はいろいろあって、大きなくくりでいうと民族、多様民族なんていうのもありますけれども、今、身近なところでいうと、少人数の学級では、関わる個性が少なく、それがいろいろと弊害にもつながる場合があるだろうなというふうに思ってます。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） 私も実際複式学級の中で生活したこともあるので、不便というか、もし強いて何か上げるとすれば、自分の学力とか例えばどの辺りにいるのかとか、あるいは何かいろんな話合いをするときに、自分の考えが他人と違ったときに、それが自分が正しいのか、あるいは自分が考え方が間違ってるのかというか、なかなか本人の、さっきの自己肯定感とえばそうなのかもしれませんけども、そういったところがあるのかなと思いますが、特にそれで何か弊害を感じたという経験というか、体験もありませんし、人数が少なくても人数に応じた教育ができれば、児童や生徒も年齢に即したそういう人格の形成が図れると考えますので、先ほどちょっと私もそこはそのように質問をさせていただきました。

先ほど多様性のことを質問しましたが、様々な経験で生徒が体験して問題解決能力を備えるということも大事ですけども、そのほかにも、昔のいろいろな先人の歴史なども勉強しながら、昔の、幕末、明治が一番イメージとして分かりやすいと思いますけど、本人たちは別にどっか海外に出たわけじゃありませんが、ちゃんと世界のいろんな問題に目を向けて、それは身の回りの教育で、自分が何のために生まれてきて何のために自分が学ぶのかということ、それと、今、身の回りで起きてることで何が問題になってて、それを解決するために何をすればいいのかとか、そういう話合いがなかなか今の教育の中では非常にちょっと欠けてるなと感じていますので、そのきっかけになるような学びができたり、あるいは本人の気づきが得れば、そこが大切になってくるんじゃないかというふうに思います。

そのときに、いろんな考え方とか、あるいは同じことの例えば話があったとしても、友達から言われる場合と先生から言われる場合と、あるいは近所の人からとか自分の尊敬する人から言われる場合とやっぱり受け止め方っていうのは違ってくると思いますので、本人がそういった関心のアンテナというか、学びの何かスイッチみたいな、そういう切替えができれば、特に自分が置かれた環境に左右されないで自然と勉強とかスポーツに取り組めるんじゃないかと思います。

その際に、どうしても今の、今後、海外の問題だとかいろいろな問題に取り組むときに正しい背景とかそういう歴史とか認識がなければ、いろんな機会に触れたとしても、自分の考え方を改めたりとかもっと深く理解するっていうのは難しいと思いますので、町長は、それを国際バカロ

レアの中で取り組んでいきたいというようなお答えではありましたが、それは今の日野町におけるそういった歴史や環境、風土の中ではなかなか少し難しいとお考えなのか、ちょっとその点の考えを、先ほどは特色のある学校ということで伺いましたけども、今の置かれてる教育現場の中でどのように受け止めておられるかというところをお尋ねします。

○議長（中原 信男君） ちょっと小林議員、前段が長いので、具体的にこれを町長はどう思いますかと質問してください。何か整理ができない。町長も多分それを今、町長は頭がいいからもう分かるとるかも分かりませんが、私が聞いとして、非常に悪いんだけど、質問の趣旨が、これというところがないので、答弁するにも何を答えていいかなと思われまよ、申し訳ないけども、これ。具体的にこれというところを示していただいけませんか、質問を。

○議員（1番 小林 良泰君） そうしますと、先ほどの安達議員の質問の中で、このプログラムの知ったきっかけといきさつが少し話がありましたので、今の現状というところの話は、それが難しいというふうな説明があったと思いますので、もっと身の回りの特色を生かした形を取り入れるというのもできるかと思いますが、そここのところの考えを聞きたいと。

○議長（中原 信男君） 身の回りの特色を生かした……。

○議員（1番 小林 良泰君） 教育をもう少し何か今の取組で何か変えていくというか、そういうところですが。

○議長（中原 信男君） 私も整理してあげたいんだけど、バカロレアの政策のことを再度確認したいのかなと思ったり、何か前段のあれが長かったもんでちょっと整理しづらいんだけど、小林議員が義務教育学校日野学園の教育に関するこで町長に聞きたいと、確認したいというようにところなんだけど、多様性から始まって、最後の質問で町長に何を質問して締めたいというところが正直分かりません。そこら辺をちょっと整理して、もう時間もありませんので質問していただければなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

小林議員。

○議員（1番 小林 良泰君） 先ほど小・中学校の導入の事例が少ないので導入を考えたいというお話であったので、今行ってる教育のところ少し考えてるところで伺いたかったんですけども。（発言する者あり）

○議長（中原 信男君） そうだね、どうも。

近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 一生懸命質問されてますんで、きっちりとお答えしたいと思います。

質問の趣旨は、バカロレアがすぐさま認定を受けることはできないので、今の中で特色のある

教育はできないのかというふうな質問かなというふうに理解をしました。

安達議員のところでお話ししましたように、認定までは2年から3年かかります。その間、放置するわけにはいきませんので、特色っていうところですね、今、先ほど教育長が説明しましたけど、はばたき科が既にあつたりしますので、その中で探求心を植え付けるとか、地域のフィールドに出て行って刺激を受けるとか、そういった部分は既にそういった個性とか特色を入れている教育があるわけですけれども、そこのところをまた新しい視点で見直すというか、工夫をするというようなところはあるのかなと思っています。

それと、せっかくの義務教育学校、繰り返しになりますけど、9年間の義務教育学校なので、7歳から15歳までの子がそろってますから、その中での刺激のし合いとか学びが活かされればいいかなと思っています。以上です。

○議長（中原 信男君） 1番、小林良泰議員。

○議員（1番 小林 良泰君） 分かりました。今の取組を見直しをしながら今後協議を進めていくと思いますので、そのように検討していただければと思います。

ちょっと時間がないので2番の質問だけしようと思いますが、今後、保護者や教職員と協議をする上で、先ほど前の議員の話もちよつと出たところでありますけど、日野学園でも不登校の生徒が多かったりとか、全国的にもそういった問題が増えておりますし、県内でも特に学校の大きさに関係なく増えておりますので、本人も含めて根本的な解決に努めていかないと、先ほど考えの中でありました、児童生徒が社会や世界で羽ばたいていけるような活躍をできるようにそういうサポートをしていかないといけないと思いますので、その協議とサポート、ケアも含めてどういうふうに進めていかれるかだけ伺って、終わりたいと思います。

○議長（中原 信男君） 近藤町長。

○町長（近藤 宏君） 不登校の児童生徒に対する取組ということでありまして、これはなかなか難しい課題でありまして、難しい課題であるからこそ、いろいろな地域、学校で苦労なさっているところでもあります。いろいろな方々の意見とか知見を伺いながら、拝借しながら対策を取っていかねばいけないと思いますけれども、行政ができる部分というのはなかなか難しいかなと思っています。行政という部分よりも、やっぱり現場のところで、既に頑張ってもらってますけれども、現場がどう取り組むかというところがあると思います。その現場を行政がどういうふうに支援するか、どういうふうに支援すると、現場が、スクールカウンセラーとか教職員の方々ですね、そういった方々が活動しやすくなるのかなというふうな視点で支援をしたいと思っています。以上です。

○議長（中原 信男君） 1 番、小林良泰議員。

○議員（1 番 小林 良泰君） 分かりました。今、学校……。

○議長（中原 信男君） 小林議員、もう時間が来てますので、縮めてください。

○議員（1 番 小林 良泰君） 今後、学校を卒業した後に、そういった目標とか夢についても、そういうきっかけはやはり学校の教育がきっかけになる場合がすごく多くありますので、今、支援員さんもたくさんいますので、その辺の相談だとかも身近に取り組んでいただければというふうに思います。

以上で一般質問を終わります。

○議長（中原 信男君） 1 番、小林良泰議員の一般質問が終わりました。

以上で本日の一般質問を終わります。

○議長（中原 信男君） お諮りいたします。本日の会議はこれで散会にいたしたいと思いを。これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中原 信男君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定をいたしました。

本日はこれで散会いたします。

会議の再開は、3月24日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。終わります。

午後4時34分散会
